

2025 年度事業報告書

学校法人 明の星学園

2025 年度事業報告書

1.法人の概要（P1～P4）

（1）基本情報

①法人の名称 ②主たる事務所の住所、電話番号、FAX 番号

（2）建学の精神

（3）学校法人の沿革

（4）設置する学校・学部・学科等及び学生数の状況

（5）収容定員充足率

（6）役員の概要

（7）評議員の概要

（8）教職員の概要

2.事業の概要（P5）

（1）中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

・学園5カ年中期計画（2025年度～2029年度）（P5-①）

・学園5カ年計画中期財務目標（2025年度～2029年度）（P5-②）

・2025年度事業計画（P5-③）

2025年度事業計画策定のための方針

2025年度各部門の事業計画（事業の目標）

・2025年度事業計画の実行結果（P5-④）

・当該年度の主な財務指標及び達成状況（P5-⑤）

3.財務の概要（P6～P18）

（1）決算の概要

①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

イ) 財務比率の経年比較

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

ウ) 財務比率の経年比較

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

イ) 財務比率の経年比較

（2）その他 ①借入金の状況 ②寄付金の状況 ③補助金の状況

④関連当事者との取引の状況

（3）経営状況の分析

1.法人の概要

(1) 基本情報

①法人の名称

学校法人明の星学園

②主たる事務所の住所、電話番号、FAX番号

- ・住所：埼玉県さいたま市緑区東浦和6丁目4番地19
- ・電話番号：048-873-1102
- ・FAX番号：048-874-8513

(2) 建学の精神

当学園の建学の精神は、カトリック主義教育の達成を基本理念として、次代を担う人間にふさわしい教育を行い、キリスト教的道徳観と、豊かな情操及び教養をそなえた国際感覚をもった人間を育成することを目的としております。

(3) 学校法人の沿革

時期	概要
1934年 10月	カナダの聖母被昇天修道会5人の修道女が青森に來日
1937年 11月	青森市に青森技芸学院の名称の下に開校
1947年 4月	新制度による高等女学校5年制を実施、青森明の星中学校を併設
1948年 4月	新制高等学校認可
1951年 3月	学校法人認可（明の星学園と称す）
1956年 10月	弘前明の星幼稚園設置認可
1963年 1月	青森明の星短期大学設置認可
1965年 3月	浦和明の星幼稚園設置認可
1967年 1月	浦和明の星女子高等学校設置認可
1971年 1月	青森明の星短期大学付属幼稚園設置認可
1971年 1月	明の星女子短期大学設置認可
1979年 6月	青森明の星中学校廃止認可
1985年 4月	学校法人明の星学園の主たる事務所に埼玉県浦和市大牧770番地（浦和校地）に移転
2002年 12月	学校法人明の星学園の主たる事務所の住所を埼玉県さいたま市東浦和6丁目4番地19（換地処分）に変更
2003年 3月	浦和明の星女子中学校設置認可
2003年 4月	学校法人明の星学園の主たる事務所の住所を埼玉県さいたま市緑区東浦和6丁目4番地19（政令指定都市）に変更
2003年 9月	明の星女子短期大学廃止認可
2008年 2月	青森明の星中学校設置認可
2026年 3月	弘前明の星幼稚園閉園

(4) 設置する学校・学部・学科等及び学生数の状況

(2025年5月1日現在)

学校 及び 学生数 の状況	学校名	学部・学科名	入学 定員	入学 者数	収容 定員	現員数
			人	人	人	人
	青森明の星短期大学	子ども福祉未来学科	100	40	200	94
	青森明の星高等学校	全日制 普通科	130	136	390	389
		全日制 英語科	40	23	120	68
	青森明の星中学校	全日制課程	60	18	180	55
	浦和明の星女子高等学校	全日制課程	160	171	480	501
	浦和明の星女子中学校	全日制課程	160	176	480	526
	弘前明の星幼稚園	—	15	0	90	7
	浦和明の星幼稚園	—	115	85	320	235
青森明の星短期大学付属幼稚園	—	5	5	60	10	

(5) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

収容 定員 充足率	計算式	学校名	2025 年度	2024 年度	2023 年度	2022 年度	2021 年度
	現員数 ----- 収容定員	青森明の星短期大学	0.47	0.55	0.66	0.71	0.88
		青森明の星高等学校	0.90	0.95	0.98	0.97	0.93
		青森明の星中学校	0.31	0.31	0.33	0.36	0.36
		浦和明の星女子高等学校	1.04	1.03	1.05	1.06	1.06
		浦和明の星女子中学校	1.10	1.09	1.09	1.09	1.10
		弘前明の星幼稚園	0.08	0.14	0.19	0.24	0.29
		浦和明の星幼稚園	0.73	0.73	0.87	0.90	0.97
		青森明の星短期大学付属幼稚園	0.17	0.08	0.17	0.27	0.37

(6) 役員概要

(2025年5月1日時点)

役員の 氏名等	氏名	任期	常勤・ 非常勤の別	主な現職
理事数 定員 8名～9名	(理事長) 島村 新	2027年 5月	常勤	学校法人明の星学園 理事長
	(理事) 花田 慎	—	常勤	青森明の星短期大学 学長
	今 卓也	—	常勤	青森明の星中学・高等学校 校長
	上原 千夏	2029年 3月	常勤	浦和明の星女子高等学校 校長
	小磯 敦	2029年 3月	常勤	浦和明の星女子中学校 校長
	島村 新	2029年 3月	常勤	学校法人明の星学園 理事長
	福岡 たき子	2025年 5月	常勤	弘前明の星幼稚園 園長
	池尾 茂	2027年 5月	非常勤	上智大学 名誉教授
	大矢 正則	2027年 5月	非常勤	東星学園小学校・中学校・高等学校 校長
	根本 のぶ子	—	非常勤	聖母被昇天修道会 代表役員
監事数 定員 2名	(監事) 橋田 孝志	2028年 8月	非常勤	—
	桐ヶ谷 信義	2028年 8月	非常勤	—

(7) 評議員の概要

(2025年5月1日時点)

評議員の氏名等	氏名	任期	主な現職
評議員数 定員 17名～22名	島村 新	2028年 8月	学校法人明の星学園 理事長
	花田 慎	2028年 8月	青森明の星短期大学 学長
	今 卓也	2028年 8月	青森明の星中学・高等学校 校長
	福岡 たき子	2028年 8月	弘前明の星幼稚園 園長
	池尾 茂	2028年 8月	上智大学 名誉教授
	大矢 正則	2028年 8月	東星学園小学校・中学校・高等学校 校長
	根本 のぶ子	2028年 8月	聖母被昇天修道会 代表役員
	栗田 亨	2028年 8月	浦和明の星幼稚園 園長
	鈴木 智子	2028年 8月	青森明の星短期大学付属幼稚園 園長
	坂本 明裕	2028年 8月	青森明の星短期大学 講師
	春田 重康	2028年 8月	法人事務局 局長
	山田 京子	2028年 8月	青森明の星中学・高等学校 教員
	淵上 崇	2028年 8月	法人事務局 職員
	平山 陽子	2028年 8月	—
	斎藤 節子	2028年 8月	—
	山内 美恵子	2028年 8月	—
吉田 真咲	2028年 8月	—	

(8) 教職員の概要

(2025年4月時点)

(単位：人)

役員	本務教員	本務職員	兼務教員	兼務職員
1	138	49	78	38

2025年2月15日

理事会において議決

学園5カ年中期計画

(2025年度～2029年度)

学校法人 明の星学園

□ はじめに

1. 建学の精神

建学の精神である「正・浄・和」が示すカトリックの人間観に基づき、自分と他者を尊重し、真の自分の存在価値を実現し使命を果たせる人間の育成に努める。

2. 計画策定の趣旨

学校法人明の星学園は、これまで「明の星学園3カ年計画」に基づき学園運営を行ってきた。

今後、教育機関として学園が行う教育の目的を果たすため、「学園5カ年中期計画」を策定し、現状と課題、今後取り組むべき事項を教職員全員が共有し、学園が目指す姿に向かい実践していくこととする。

□ 学校法人明の星学園

これまでの「明の星学園3カ年計画」の実施成果を検証し、その反省と評価に基づく教育活動に取り組むとともに、学園の将来に向けた安定的な財政基盤の確立をめざす。

近年、在籍園児・生徒・学生が急激に減少していることから、募集方法の工夫はもとより、学園の雰囲気やカラー、学園訓に基づく人間教育の内容等を全教職員で共有し、それを募集活動において顕在化させ、入園・入学者の増加を図る。

1. 全般

・教育事業活動全体の改善及び質の向上を図るとともに、教育環境を整備する。

2. 教育

・建学の精神を堅持し、カトリックの人間観に基づく教育を徹底する。
・教育内容の充実と教職員の資質向上を図る。

3. 募集

・募集・広報・進路指導のきめ細かい施策を推進する。
・広報活動においては、広報する内容の確認や見直しを図る。

4. 財務・管理

・以下の財務指標に基づいた、各年度及び各学校の財務目標値の達成に努める。

（ 人件費比率（人件費／事業活動収入）60%以下
人件費依存率（人件費／納付金）100%以下
事業活動収支比率（事業活動支出／事業活動収入）100%以下 ）

・組織運営、管理体制を整備し、ガバナンスの強化を図る。

□ 青森明の星中学・高等学校

1 目 標

校訓「正浄和」が示すカトリックの人間観に基づき、自分と他者を尊重し、真の自分の存在価値を実現し使命を果たせる人間の育成に努めとともに、人格の完成や時代を担う社会の形成者にふさわしい豊かな教養の修得を目指し、生徒一人一人が持つ能力・特性等を養い育てる。

2 重点課題

- (1) 建学の精神の堅持に努める。
- (2) 進学実績の向上に努める。
- (3) 生徒指導の充実に努める。
- (4) 部活動の活性化に努める
- (5) 生徒募集活動の充実に努める。

3 実行計画

- (1) 校訓「正浄和」に基づく学校行事・生徒指導等の充実に努める。
- (2) 国公立大学合格者 40 名以上の定着を目指す。
- (3) 帰属意識及び規範意識の向上を図る。
- (4) 体育及び文化部活動の一層の充実に努める。
- (5) 選ばれる学校を目指し、本校専願入学者数増を図る。

□ 浦和明の星女子中学・高等学校

1 目 標

カトリックミッションスクールとしてのアイデンティティを確認し、キリスト教的人間観を基盤とした、一人ひとりを大切にす教育を堅持する。

2 重点課題

(生徒に対して)

- (1) 学園訓（校訓）「正・浄・和」の理解

(教職員に対して)

- (2) 上記（1）のことを適切に実践するための学園訓（校訓）「正・浄・和」の意味についての共通理解
- (3) 時代の趨勢や社会の要請を正しく捉えた適切な教科指導の実践

3 実行計画（重点課題の解決に向けた、「具体的に実施していく事項」「行動計画」等）

(生徒に対して)

- (1) 放送朝礼やアッセンブリ（全校集会）等、学校生活のあらゆる機会を活用した学園訓（校訓）の理解

- (2) 2026年度の創立60周年記念式典に向けた明の星学園の歴史や存在意義等の理解
(教職員に対して)
- (3) 教員研修会等による学園訓(校訓)や建学の精神についての共通理解
- (4) 最新の知見を活かした授業法等についての研修・研鑽を通じた適切な授業の実践

□ 青森明の星短期大学付属幼稚園

1 目 標

5年後の青森明の星短期大学付属幼稚園は、全園児が自分らしく成長できる場所として、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、豊かな教育環境を提供します。

教職員は子どもとの信頼関係を築き、保護者と連携しながら、心身ともに健やかな成長を支えます。また、地域とのつながりを大切に、地域の中で信頼され、支えられる園づくりを進めます。

2 重点課題

- (1) 建学の精神を堅持する
- (2) 教育環境を整備し、教育内容の充実を図る
- (3) 募集施策を推進する

3 実行計画

- (1) キリスト教精神に基づく教育内容の充実を図る
キリスト教に基づく価値観をどのように日々の活動に取り組むかを明確にする
- (2) 教育環境の整備
園内の遊具、教材等を見直し、子どもたちにとってより魅力的な教育環境を整える
- (3) 教職員研修の充実
定期的な研修を通じて、教職員のスキルを向上させ、質の高い教育を実現する
- (4) 募集対策に取り組む
 - ① 地域の特性に応じた広報活動を行い、園の魅力を発信し、入園者の増加を目指す
 - ② 地域とのつながりを強化し、園の存在感を高める
- (5) 支出の抑制に努める
 - ① 無駄な支出を見直し、支出の削減や効率化を進める
 - ② 補助金を取得、活用することで、財政基盤の安定化を図る
- (6) 保護者との連携強化
 - ① 定期的に保護者との面談を実施し、園の方針や教育内容を共有し、理解を深めるとともに、連携を強化し、信頼を築く

(7) 幼小の円滑な接続と連携の強化

- ① オアシス会議の開催、情報交換、行事を通しての交流等を行うことで、子どもたちが安心して小学校生活に移行できるようにする。

□ 浦和明の星幼稚園

1 目 標

我が子を通わせたい園であり続ける。

現状・課題

園長就任以来、研修の充実と連絡会・職員会議の整備などを通して、保育の質の向上に取り組んできた。真面目で穏やかな教職員のもと、優しく思いやりのある子どもが育っている。さらに、子どもの「やってみたい」を大切に、遊びから行事につなげるなど主体性を育てようとする教員も増えてきている。昨年度からの「こども誰でも通園制度」は、予想を上回る参会者を得、丁寧な指導により大好評を博している。一方、正門から奥まった場所にあり、周りから園内の様子を窺えないこともあり、「ブラウスにアイロンを掛ける園」、敷居が高いという風評も聞こえる。真に「いきいき・のびのび・なかよく」過ごせる園を目指して、5年後、10年後も子どもが幼稚園に行きたい、我が子を通わせたいという園であり続けたい。

一方、少子化は確実に進んでおり、2020年度の319名をピークに園児数は漸減し、100名近くいた新入園児も2024年度には62名と極端に減った。枠にとらわれない募集を行い、2025年度は77名の年少児、20名の満3歳児を獲得したが、保育所との競合もあり新入園児獲得は、依然厳しい状況が続いている。上の子が喜んで通っている、早い段階から集団生活を体験させたい、働きに出たいなどの理由で満3歳児クラスは好評のうちに定員に達したので、保護者のニーズを的確に掴んで今まで以上に丁寧な保育を心がけたい。来年度は、8時からの早朝保育、長期休業中の預かり保育日数を増やすなどして、やがて年間15日休室、預かり保育料無償の「子育て支援型」幼稚園に無理なく移行したい。また、2026年度には、財務基盤が安定するという施設型給付園となるよう準備を進めたい。

2 重点課題

- (1) 学園訓「正・浄・和」が目指す「いきいき・のびのび・なかよく」生きる子を育てる。
- (2) すべての子どもが「やってみたい」を持ち、実現できるようにする。
- (3) 親の知りたいと園のよさをつなぐ広報活動に努める。
- (4) 安定的な人材確保及び財務基盤を確立する。

3 実行計画

- (1) 学園訓「正・浄・和」が目指す「いきいき・のびのび・なかよく」生きる子を育てる。
 - ① 建学の精神及びカトリックの人間観に基づく教育への理解を深める。
 - ② 学園訓が幼稚園で目指す姿「いきいき・のびのび・なかよく」の具体的姿を明らかにする。
 - ③ さいたま教区幼稚園公開保育を目指して、主体性を持ってカトリック研修に参加する。
- (2) すべての子どもが「やってみたい」を持ち、実現できるようにする。
 - ① 学年やビデオ研究ですべての教員が、子どもの「やってみたい」を実現できるようにする。
 - ② 子どもの主体性を大切にする教育環境の整備と乳児から小学校へのカリキュラムを作る。
 - ③ 加算条件研修を実践につなげ、安全・安心な園生活のための園内研修を充実させる。
- (3) 親の知りたいと園のよさをつなぐ広報活動に努める。
 - ① 創立 60 周年の伝統をつなぎ新たな保育を丁寧に行い、乳幼児センター機能の充実を図る。
 - ② 親の知りたいと園のよさをつなぐ幼稚園見学会や園庭開放などを充実させる。
 - ③ 子どもから教職員、保護者まで誰もが、よさを伝える広報担当として行動する。
- (4) 安定的な人材確保及び財務基盤を確立する。
 - ① 持続可能な賃金体系を確立し、保護者や実習生など明の星を愛する人を迎え入れる。
 - ② 適材、適所、適量、適給の人材配置、高熱水道費の無駄の削減などを徹底する。
 - ③ 保護者に寄り添い、施設型給付園、子育て支援型幼稚園に向けて財務基盤を確立する。

中学校・高等学校、幼稚園の記載様式

1 目標

現状・課題等を踏まえた、5年後の学校の「めざす姿」

2 重点課題

めざす姿の実現に向けた、「重点的に取り組むべき課題」

3 実行計画

重点課題の解決に向けた、「具体的に実施していく事項」「行動計画」等

2025年度 ～ 2029年度 学園5か年中期計画財務目標(案)

学園の5か年計画財務指標達成のために、各部門の財務目標をつぎのとおり定める。

目標設定の方針

- 1 2021年度 ～ 2023年度の各部門の財務比率の累計平均値を目標値とする。
- 2 学園の3か年計画財務指標未達の部門においては、累計平均値から5%をマイナスし、目標値とする。

各部門の財務目標値

(単位:%)

比率名	青森短大	青森中・高	青森幼稚園	弘前幼稚園	浦和中・高	浦和幼稚園
人件費比率	57.0	59.1	123.0	108.2	49.4	57.4
人件費依存率	137.0	134.1	232.7	138.3	78.8	106.6
事業活動支出比率	150.2	96.6	180.9	144.4	95.9	95.2

添付書類:年度別 各部門の財務比率一覧

年度別 各部門の財務比率一覧

(単位:千円)

財務比率及び目標	算式	2021年度(決算値)						
		青短	青中高	青幼	弘幼	浦中高	浦幼	学園計
人件費比率	人件費/事業活動収入	190,480	361,198	32,028	32,404	542,372	116,635	1,329,141
		317,003	567,007	31,523	30,508	1,131,349	218,372	2,281,014
実績		60.1%	63.7%	101.6%	106.2%	48.0%	53.4%	58.3%
		2022年度(決算値)						
		179,051	356,019	53,859	33,245	600,648	126,913	1,399,531
		283,652	547,777	42,096	28,734	1,178,476	209,368	2,275,214
		63.1%	65.0%	127.9%	115.7%	51.0%	60.6%	61.5%
		2023年度(決算値)						
		162,989	333,975	28,792	35,030	577,695	121,608	1,322,927
		258,106	525,258	15,975	29,694	1,171,263	207,886	2,192,184
		63.1%	63.6%	180.2%	118.0%	49.3%	58.5%	60.3%

takashifuchigami:

- ①SD:各部門事業活動収支計算書(内部あり)
- ②事業活動収入は+他部門繰入金収入(学園計は考慮しない)

人件費合計(A)	532,520	1,051,192	114,679	100,679	1,721,215	365,156	4,051,599
事業活動収入合計(B)	858,761	1,640,042	89,594	88,936	3,481,088	635,626	6,748,412
実績累計割合(C=A/B)	62.0%	64.1%	128.6%	113.2%	49.4%	57.5%	60.0%

(単位:千円)

財務比率及び目標	算式	2021年度(決算値)						
		青短	青中高	青幼	弘幼	浦中高	浦幼	学園計
人件費依存率	人件費/学納金	190,480	361,198	32,028	32,404	542,872	116,635	1,329,141
		144,000	243,793	21,463	23,672	729,094	116,805	1,278,828
実績		132.3%	148.2%	149.2%	136.9%	74.5%	99.9%	103.9%
		2022年度(決算値)						
		179,051	356,019	53,859	33,245	600,648	126,913	1,399,531
		119,785	255,409	16,436	21,551	728,581	106,640	1,248,404
		149.5%	139.4%	327.7%	154.3%	82.4%	119.0%	112.1%
		2023年度(決算値)						
		162,989	333,975	28,792	35,030	577,695	121,608	1,322,927
		111,185	256,438	10,355	25,054	727,149	103,895	1,234,077
		146.6%	130.2%	278.0%	139.8%	79.4%	117.0%	107.2%

takashifuchigami:

- ①SD:各部門事業活動収支計算書(内部あり)
- ②内部取引は考慮しない。
- ③青幼・弘前は「施設型給付費」を加算。

人件費合計(A)	532,520	1,051,192	114,679	100,679	1,721,215	365,156	4,051,599
学納金合計(B)	374,970	755,640	48,254	70,277	2,184,824	327,340	3,761,309
実績累計割合(C=A/B)	142.0%	139.1%	237.7%	144.5%	78.3%	111.6%	107.7%

(単位:千円)

財務比率及び目標	算式	2021年度(決算値)						
		青短	青中高	青幼	弘幼	浦中高	浦幼	学園計
事業活動支出比率	事業活動支出/事業活動収入	516,902	561,430	48,528	42,980	1,067,253	212,528	2,394,336
		317,003	567,007	31,523	30,508	1,131,349	218,372	2,281,014
実績		163.1%	99.0%	153.9%	140.9%	94.3%	97.3%	105.0%
		2022年度(決算値)						
		424,581	556,603	70,424	44,579	1,127,300	217,079	2,403,023
		283,652	547,777	42,096	28,734	1,178,476	209,368	2,275,214
		149.7%	101.6%	167.3%	155.1%	95.7%	103.7%	105.6%
		2023年度(決算値)						
		391,541	548,676	47,572	45,278	1,142,316	207,055	2,351,902
		258,106	525,258	15,975	29,694	1,171,263	207,886	2,192,184
		151.7%	104.5%	297.8%	152.5%	97.5%	99.6%	107.3%

takashifuchigami:

- ①SD:各部門事業活動収支計算書(内部あり)
- ②事業活動支出は+他部門繰入金支出(学園計は考慮しない)
- ※事業活動収入は上記参照

事業活動支出合計(A)	1,333,024	1,666,709	166,524	132,837	3,336,869	636,662	7,149,261
事業活動収入合計(B)	858,761	1,640,042	89,594	88,936	3,481,088	635,626	6,748,412
実績累計割合(C=A/D)	155.2%	101.6%	185.9%	149.4%	95.9%	100.2%	105.9%

2025年度事業計画

1 事業計画策定のための方針（「学園5か年中期計画」2025年度～2029年度：2024年11月16日理事会にて議決）

- (1) 全般
 - ・教育事業活動全体の改善及び質の向上を図るとともに、教育環境を整備する。
- (2) 教育
 - ・建学の精神を堅持し、カトリックの人間観に基づく教育を徹底する。
 - ・教育内容の充実と教職員の資質向上を図る。
- (3) 募集
 - ・募集、広報、進路指導のきめ細かい施策を推進する。
 - ・広報活動においては、広報する内容の確認や見直しを図る。
- (4) 財務・管理
 - ・以下の財務指標に基づいた、各年度及び各学校の財務目標の達成に努める。
 - 人件費比率（人件費／事業活動収入） 60%以下
 - 人件費依存率（人件費／納付金） 100%以下
 - 事業活動収支比率（事業活動支出／事業活動収入） 100%以下
 - ・組織運営、管理体制を整備し、ガバナンスの強化を図る。

2 各部門の事業計画（事業の目標）

事業計画策定のための方針 「学園5か年中期計画」より		事業の目標					
		青森短大	青森中高	浦和中高	弘前幼稚園	浦和幼稚園	青森幼稚園
全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育環境を整備する。 ・ 教育事業活動全体の改善及び質の向上を図るとともに、 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内部質保証の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育活動全体の改善及び質の向上を図るとともに、教育環境を整備する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園訓（校訓）に基づき教育の実践 ・ 教育内容の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建学の精神を堅持する ・ 教職員の資質向上を図る ・ 70周年時の閉園を滞りなく行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創立60周年の伝統をつなぐ、幼児教育の充実 ・ つなぐ、つなげる～ ・ 建学精神の堅持 ・ 魅力ある職場、教育環境の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建学の精神を堅持する ・ 教育環境を整備し、教育内容の充実を図る ・ 募集施策を推進する

事業の目標					
青森短大	青森中高	補和中高	弘前幼稚園	浦和幼稚園	青森幼稚園
<p>・ 学生が成長を実感できる教育活動の推進</p>	<p>・ 建学の精神を堅持し、カトリックの人間観に基づく教育を徹底する。</p> <p>・ 教育内容の充実と教職員の資質向上を図る</p>	<p>・ 年間実践目標「浄」の理解</p> <p>・ 授業の充実</p>	<p>・ キリスト教精神に基づく教育内容の充実を図る（保護者から信頼される保育内容と方法の研究）</p> <p>・ 研修の充実を図る（園内研修の内容をよく検討して）</p> <p>・ 教育環境を整える</p> <p>・ 最終年度の取り組みを計画する</p>	<p>・ 「やってみたい」を持ち、実現する子の育成</p> <p>・ 子どもの主体性を育む教育環境の整備と「豊かなところ」を視点にしたカリキュラムの作成</p> <p>・ 加算条件研修を実践につなげ、安全・安心な園生活のための園内研修の充実</p>	<p>・ キリスト教精神に基づく教育内容の充実を図る</p> <p>・ 研修の充実を図る</p> <p>・ 教育環境を整える</p>
<p>事業計画策定のための方針</p> <p>「学園5か年中期計画」より</p> <p>教育</p>	<p>・ 教育内容の充実と教職員の資質向上を図る。</p> <p>教育環境を整備する。</p> <p>・ 建学の精神を堅持し、カトリックの人間観に基づく</p>				

事業計画策定のための方針		事業の目標				
		青森短大	青森中高	補和中高	弘前幼稚園	浦和幼稚園
募集	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動においては、広報する内容の確認や見直しを図る。 ・ 募集、広報、進路指導のきめ細かい施策を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 募集、広報、進路指導のきめ細かい施策を推進する ・ 広報活動においては、広報する内容の確認や見直しを図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校見学会、説明会の充実 ・ 広報資料の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 募集停止 ・ たんぽぽクラス（遊び場提供をする） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創立60周年の伝統を生かした新たな保育と乳幼児センター機能の充実 ・ 親の知りたいと園のよさをつなぐ幼稚園見学会や園庭解放の充実 ・ 誰もがよさをつなげる広報活動の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 募集対策に取り組む ・ 園児確保に努める ・ 未就園児に対する活動の工夫

事業計画策定のための方針		事業の目標					
		青森短大	青森中高	浦和中高	弘前幼稚園	浦和幼稚園	青森幼稚園
財務・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・組織運営、管理体制を整備し、ガバナンスの強化を図る。 ・各種財務指標に基づいた、各年度及び各学校の財務目標値の達成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンスの確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務指標3項目について、財務目標値の達成に努める ・人件費依存率(63.1%以下) ・人件費依存率(138.1%以下) ・事業活動収支比率(100.6%以下) 	<ul style="list-style-type: none"> ・財務目標の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・課外教室の事業収入増に努める ・支出の抑制に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業活動収支比率の向上 ・保育料無償化事務の効率化 ・県、市の補助金の取得と有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・支出の抑制に努める

事業計画策定のための方針 「学園5か年中期計画」より		事業の目標					
		青森短大	青森中高	浦和中高	弘前幼稚園	浦和幼稚園	青森幼稚園
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた学びの場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や学校間の連携、交流の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の啓蒙 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小架け橋プログラムを作成し小学校との繋がりを密にする ・閉園に際し、関係各位に挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な賃金体系の実現による安定的な人材の確保 ・PTAへの啓発と連携 ・近隣の小学校との接続、学園中、高との連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携の推進

2025年度事業計画の実行結果

- 青森明の星短期大学
- 青森明の星中学・高等学校
- 浦和明の星女子中学・高等学校
- 青森明の星短期大学附属幼稚園
- 弘前明の星幼稚園
- 浦和明の星幼稚園

2025年度事業計画の実行結果

1 学生が成長を実感できる教育活動の推進

(1) 可視化した学修成果資料を活用した指導助言・・・[学修者本位の教育]

学修到達レポートにより、「学修成績」「PROG（基礎力測定テスト）」「自己評価」の3面から達成度をグラフ化し、どの力が伸びたのか視覚的に確認させた。また、卒業時には「学びの証明書」として、卒業までの経過をまとめた「学修到達レポート」を配布した。

・PROGの成長分析結果によると、「10の力」のうち6項目（聴く力、柔軟性、社会性、実践力、主体性、問題解決力）が一年前のスコアを上回った。

(2) FD、SD等の研修機会の充実と研究活動の推進・・・[教職員の資質向上]

① SD研修会「障がいのある学生の就学支援」（全教職員対象）

② FD研修会「教育活動における生成AIの活用と課題」（全教員対象）

③ 「2025年度研究紀要」執筆者3名（論文1名、研究ノート2名）

・学校課題や教職員の希望等を踏まえたテーマを設定し研修会を実施した。

(3) 地域と連携した教育活動等の実施・・・[学修意欲の向上][社会貢献]

① 港町町会ねぶた（参加55名）

② 浪打銀座商店会夏祭りボランティア（参加41名）

・上記の他、むつ市や中泊町と連携した活動を実施し、学生が減っている中においても多数の学生がボランティアに参加した。

(4) 学友会行事の活性化とキャンパスライフの充実・・・[学生生活の満足度向上]

① 体育祭（参加率90%）

② 学生祭（参加率92%）※来場者207名

③ クリスマスの集い（参加率77%）

・例年通り学生主体で企画・実施され、思い出に残る交流機会となった。

(5) 適切な進路選択と進路決定に向けたキャリア支援・・・[希望する進路の実現]

保育施設や介護施設をはじめ、公務員や一般企業など就職率100%を達成した。

・介護福祉士の国家試験においても、3年連続で合格率100%を達成した。

2 地域に開かれた学びの場づくり・・・[社会貢献]

① 教育カウンセラー養成講座（7月、10月の計6日間）

② リカレント講座「仕事の困りごと」「気になる子どもと保育」（8月）

③ 公開講座「青森で“好き”を仕事にする」（11月）他

・チラシ等の広報活動による集客を図り、地域に開かれた学習機会の提供に努めた。

2025年度事業計画の実行結果

1 建学の精神の堅持

「自分と他者を尊重し、真の自分の存在価値を実現し、使命を果たせる人間の育成に努める」ことを、日常の教育活動の中で実践し、建学の精神の具現化を図った。

「祈り」を通し、カトリック精神に基づく自己と他者を尊び、思いやる心を育むことを目的に、典礼行事（「聖母月のミサ」「黙想会」「クリスマスの集い」）や追悼集会（「東日本大震災追悼集会」「世界の平和を祈る集い」）、朝礼講話、講演会等を実施した。また、自らの行いが他者を支える力となることを実感する機会として、文化祭で得られた収益金を国内外の慈善団体（フィリピンの孤児院、インドにおける貧困問題、こども食堂）へ寄付する活動を実践した。

明の星での学校生活全体を通して、使命を果たせる人間の育成に努めるとともに、社会の形成者として豊かな心を備えた人格の形成を図った。



2 進学実績の向上

高校1年次より、大学見学、進路講演、大学模擬講義の実施等を通して、大学進学への意識付けを行った。

また、課外講習や放課後勉強会、大手予備校講習への参加等を通して、受験学力の向上に努めた。教員に対しては、校内外の研修会への参加を奨励し、進学指導力の向上を図った。

受験生の約88%が総合型選抜および学校推薦型選抜による年内入試に挑戦し、高校3年間の探究活動や部活動、ボランティア活動等の実践を生かしながら、受験者の7割以上が合格を果たした。

就職希望者は全体の14%であり、ハローワークやビジネススクールの協力を得ながら、1年次から3年間にわたる計画的な就職指導を行った。あわせて、就職に資するスキルの習得を目的として、ワープロ検定、情報処理技能検定、文書デザイン検定、文章入力スピード認定試験等の資格取得に向けた指導も実施した。

2025年度における進路状況は、以下のとおりである。



2025年度卒業生進路状況

進路先	大学		短期大学		専門専修		就職		その他
	国公立	私立	公立	私立	医看	私立	民間	公務	
人数(158人中)	30	64	4	8	2	22	12	2	14
合計(%)	94 (59%)		12 (8%)		24 (15%)		14 (9%)		14 (9%)

3 生徒指導の充実

スクールカウンセラーや教育支援員と連携し、担任・学年・管理職が生徒情報を共有しながら、個に応じたきめ細かな支援を行った。

小・中学校段階から不登校を経験している生徒も多く、登校困難や教室不適應といった課題が見られる。これに対し、特別課題の設定やオンライン授業の実施など、多様な学びの機会の確保に努めた。その結果、支援の充実が図られた一方で、進路変更に至るケースもあり、引き続き体制の強化が求められる。

いじめへの対応としては、「学校生活アンケート」の実施と結果に基づく面談により、早期把握と迅速な対応に努めた。また、被害生徒・加害生徒双方に寄り添う指導を行い、安心して学校生活を送ることができる環境づくりに取り組んだ。

4 部活動の活性化

部活動は、生徒の自主性や責任感、連帯感を育むとともに、自己肯定感を高めるなど、人間形成に資する重要な教育活動として位置付けている。運動部及び文化部においては、それぞれの活動を通して日々の努力を積み重ね、その成果として全国大会に出場し、活躍している（空手道部、柔道部、ソフトテニス部、放送部、文芸部）。また、その他の部活動においても、地区大会優勝や各種コンクール入賞を果たすなど、活動の充実が図られており、部活動の教育的意義が着実に発揮されている。

その一例として、本校硬式野球部が、青森県高等学校野球連盟より、春の選抜高等学校野球大会の「21世紀枠」候補校として推薦されたことが挙げられる。（推薦理由：大会成績に加え、専用グラウンドがない中での工夫を凝らした練習の積み重ね、小学生を対象とした野球教室の開催、除雪が困難な家庭への雪かきボランティアの実施など、競技力のみならず社会貢献活動にも主体的に取り組んでいる点が評価された。）



5 生徒募集の充実

高校のオープンスクールは2回、中学校のオープンスクールは3回実施した。また、教員を対象とした高校入試説明会を3回実施するとともに、市内全中学校への訪問説明を行った。さらに、他市郡の各中学校を訪問し、教員に対する学校説明を行うなど、市内外にわたり広範囲な募集活動を展開した。

加えて、テレビやラジオ、新聞等のメディアを活用し、学校の広報活動の充実を図った。オープンスクールの参加人数は、昨年度の905名に対して今年度は651名と減少したものの、最終的には高校入学者数が192名となり、定員170名を上回る結果となった。中学校入学者は16名であり、今後の募集課題となっている。

2025 年度事業計画実施報告

浦和明の星女子中学・高等学校

I. 2026 年度入試

	募集人数	応募者数	受験者数	合格者数	実質倍率	繰上げ	入学者数
第 1 回	120	1,874 ^{*1}	1,831	1,103	1.7	25	176
第 2 回	40	233 ^{*2}	213	59	3.6		
計	160	2,197 ^{*3}	2,044	1,162			

*¹ 対 2020 年度入試 (2,098) 比 89% *² 対 2020 年度入試 (413) 比 56%

*³ 対 2020 年度入試 (2,511) 比 84%

II. 建学の精神の理解を目指す教育

1. 学校行事

1) オリエンテーション合宿 (山梨 清泉寮)

・高 1 (4/21~4/23)

テーマ: 「真に自由な人になるには」「自分のために、みんなのために生きるには」

・中 1 (4/23~4/25)

テーマ: 「明の星の精神を理解しよう」

2) 修養会

・中 2、中 3 (4/22 本校)

講師: マルコ=ヴィッラ神父 (ミラノ外国宣教会・さいたま教区協力司祭)

テーマ: 「愛の力」

・高 2、高 3 (4/23 本校)

講師: 鈴木真神父 (カトリック山手教会主任司祭)

テーマ: 「私と神さま、私たち」

・中 1、高 1 (10/28 (中 1) 本校 (高 1) カトリック麹町教会 (聖イグナチオ教会))

講師: (中 1) 小島知博神父 (サレジオ修道会)

(高 1) 萱場基神父 (イエズス会)

テーマ: (中 1) 「豊かに学校生活を送る」

(高 1) 「わたくしの FOOTPRINTS (足あと)」

3) 文化講演会 (11/10 本校)

講師: 湯浅誠氏 (社会活動家 東京大学先端科学技術研究センター特任教授)

テーマ: 「SNS 以上しがらみ未満の「つながり」って?」

4) クリスマス行事 (12/17)

内 容: 祈りの集いとチャリティ活動

<チャリティ活動一覧>

中 1 老人ホーム慰問

中 2 地域清掃 (見沼代用水路沿い)

中 3 千羽鶴 (長崎原爆資料館ならびに長崎平和記念公園へ寄贈)

- 高1 フードバンク活動・縫いぐるみ等製作
(認定 NPO 法人チアーズさいたまこども食堂へ寄付)
- 高2 チャリティバザー (認定 NPO 法人フローレンスへ寄付)
- 高3 校内清掃

2. アssenブリ (全校集会)

- ・校訓「正・浄・和」の理解
- ・2025年度実践目標『『ありのままの私として』-校訓『浄』に基づいて-』の理解
 - 4/11 中学校長、高校校長、中学教頭、高校教頭の話
 - 5/ 2 体育委員 (球技大会)、合唱コンクール系の生徒のスピーチ、中学校長の話
 - 6/13 明の星祭 (文化祭) 実行委員のスピーチ、中学校長の話
 - 9/12 体育委員 (スポーツデー) のスピーチ、中学教頭の話
 - 10/ 3 高校校長の話
 - 11/28 高校教頭の話
 - 1/23 (高3登校日) 高校校長の話 (高校3年生に向けて)
 - 2/13 中学校長、高校校長の話

3. 創立60周年に向けて

- ・「記念のことば」選定
『喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。』
(ローマの信徒への手紙 12:15)

Ⅲ. 教員研修

1. 夏期教員研修 (8/28 本校)

- 講師： 小島知博神父 (サレジオ修道会)
- テーマ： 「ミッション・スクールに勤めるにあたって」

2. 外部研修

- ・2025年度の外部研修会参加件数 49
(内訳) 教科関係 31 生徒指導関係 10 中学入試関係 3 進路指導関係 5

Ⅳ. 生徒募集

1. 学校見学会・説明会

1) 見学会配布資料数

第1回：408 第2回：255 第3回：228 計：891 (前年度比 103%)

2) 説明会配布資料数

第1回：(午前) 232 (午後) 245
第2回：(午前) 220 (午後) 221
第3回：(午前) 398 計 1,316 (前年度比 105%)

2. 学校紹介パンフレット及びHPの改訂

3. 学校紹介ビデオ制作 (2025年9月完成、2025年度学校説明会より活用)

2025年度 事業計画の実行結果

1. 全体

今年度は、「教育内容の充実」と「募集活動・情報発信の強化」を中心に取り組んだ。

建学の精神を基盤とし、カトリック園として、一人ひとりが大切にされる存在であることを大切にし、安心できる環境の中で育つことを重視してきた。こうした理念のもと、日々の保育を通して子ども一人ひとりの育ちに目を向け、主体的な活動を大切に実践を行った。

また、未就園児活動や情報発信についても継続して取り組んだ。



2. 教育

教育内容の充実を図るとともに、キリスト教精神に基づく保育や研修の充実、教育環境の整備に取り組んだ。

(1) 日々の保育

毎日の祈りや感謝の時間を大切にしなが、思いやりや協力する気持ちを育てる保育を行った。

子ども主体の活動を意識し、年長児を中心に遊びが発展する姿が多く見られた。シャボン玉遊びでは道具や液を工夫しながら試行錯誤する様子が見られ、廃材遊びでは家づくりからお店屋さんごっこへと発展するなど、子ども同士で相談しながら活動を広げる姿が見られた。

また、少人数であることを活かし、異年齢で関わる場面が日常的に見られた。年度途中から園児が増える中でも、安心して過ごせるよう丁寧に関わることを大切にし、一人ひとりが園生活に慣れながら自信や意欲を育てていく姿が見られた。園舎内外の安全についても日常的に確認を行い、安心して過ごせる環境づくりに努めた。

一方で、保育のねらいや子どもの姿について、職員間での共有をさらに深めていく必要がある。



(2) 活動の充実

子どもの興味や関心に応じて活動内容を見直しなが、製作活動や体験活動を計画的に実施した。

製作活動においては、結果だけでなく過程を重視し、子ども一人ひとりの表現を大切にしながら取り組んだ。

その成果として、歯科図画ポスターコンクールにおいて6名が入賞（特選1名、金賞1名、銀賞3名、銅賞1名）し、そのうち1名は県代表として全国に出品され、全国でも佳作に選ばれた。



また、東奥児童美術展での入賞や、「mt art contest for kids 2026」において作品が選出されるなど、継続した取り組みの成果が見られた。

これらの活動は受賞を目的とするものではなく、作品を多くの人に見てもらうことで子どもたちの表現が認められ、自信や意欲につながる経験となっている。

体験活動においては、以下のような取り組みを行った。

- ・生け花体験
- ・環境学習（むつ湾の環境、ゴミのポイ捨て等について学ぶ）
- ・施設見学（整備士体験等）
- ・食育体験（大根やじゃがいもの栽培、収穫、食べる体験、りんご狩り等）

実際に見て触れる中で、子どもたちの興味や関心が広がる様子が見られた。

一方で、活動のねらいや過程について、保護者への伝え方をさらに工夫していきたい。



（3）絵本・読書

図書室を活用し、絵本の貸し出しを行った。

絵本に触れる機会が増え、子ども同士で絵本の話が出る場面や、家庭での会話につながる様子が見られた。

言葉や想像力の育ちにつながっていると考えられるが、その意図や大切さについて、保護者への発信をさらに進めていけるよう努める。



（4）研修

教職員の資質向上を目的として、外部研修および園内研修に計画的に参加した。外部研修6回、園内研修5回、計11回の研修を実施した。主な内容は以下のとおりである。

- ・カトリック教育（教職員研修大会）
- ・発達支援（ASD・ADHD・感覚特性）
- ・HSC への理解
- ・救命対応（窒息対応について学ぶ）
- ・人権擁護（個人のセルフチェックを使っでの話し合い）

研修を通して、子どもの行動の背景や気持ちに目を向ける視点や、カトリック教育の理解について共通理解を深めることができた。

今後は、研修で得た学びを日常の保育により具体的に活かし、職員間で共有していくことが課題である。



（5）幼小連携

小学校との情報交換や行事見学、幼保小連携協議会等を通して、就学に向けた取り組みを進めた。また、幼小連携の取組について保護者に理解していただくた



め、資料を作成・配布し、就学に向けた園の考え方や幼児期に大切にしている学びについて伝える機会を設けた。

さらに、小学校の運動会予行や音楽集会を参観する機会を設けることで、子どもたちが小学校の雰囲気に触れ、就学への期待や安心感につながっている様子が見られた。

今後は、こうした取り組みの内容について、保護者への伝え方を工夫していく必要がある。

3. 募集・広報

(1) 未就園児活動

「ひよこクラブ」「プレイルーム」を継続して実施した。

活動内容については、親子で安心して参加できる雰囲気づくりを大切に、リトミックや製作活動、季節に応じた遊びなどを取り入れながら実施した。参加者同士や職員との関わりを通して、園の雰囲気を感じていただけるよう努めた。



また、市内40か所以上の施設にチラシ配布を行うなど周知を図り、地域の子育て支援施設等とも連携しながら、園の活動を知っていただく機会を広げた。

継続して参加する家庭も見られ、園への関心や入園につながる様子が見られた。

(2) 情報発信

Instagramやホームページを活用し、日々の保育や行事の様子について継続的に情報発信を行った。

前年度と比較して発信回数を増やし、園生活や活動の様子が具体的に伝わるよう、写真や動画を中心に発信内容を工夫した。

また、園内においても写真掲示や日々の記録を通して、子どもたちの活動や成長の様子を保護者に伝えるよう努めた。

一方で、三学期は大雪の影響や園児の体調不良により参観日を実施できず、園での様子を直接見ていただく機会を設けることができなかつたため、情報共有の方法について今後さらに工夫が必要である。

(3) 園児数の状況

5月1日時点で10名であった園児数は、翌年1月には15名となった。(現在、本園の利用定員は15名)

2025年度は、前年度に卒園児がいなかったこともあり、在園児数が維持された面もあるが、未就園児活動や情報発信、日々の保護者との関わりとの積み重ねにより、園への関心や入園につながった様子も見られた。

4. まとめ

今年度は、建学の精神を基盤とし、子ども主体の活動を大切にしながら、日々の保育や様々な体験を通して子どもたちの育ちを支えることができた。

製作活動や体験活動、情報発信などを通して、子どもたちの興味や関心の広がりや自信につながる経験を積むことができた。

一方で、・保育内容の伝え方 ・情報発信の工夫 ・職員間の共有 などの課題も感じられた。

今後も、少人数ならではの丁寧な関わりを活かしながら、子ども一人ひとりを大切にされた保育の充実につなげていくよう努めていく。

責任者会議

2026年5月16日
弘前明の星幼稚園

2025年度 事業計画実行状況（成果と反省）

◎ 実行状況

1) 全般

建学の精神を堅持する

教職員の資質向上を図る

・園内研修

・園内研修

○ 5月22日 絵本作家「ささやすゆき絵本原画展」について

幼児絵本の原画を鑑賞し、さささんと懇談でき、作品の表現方法及び画材のお話しを聞くことが出来（自宅の周りの自然をより多く取り入れた作品）心豊かな時間を共有できた。岩木町に15年前に帰り作品作りと地域の人に「絵を描こう！」と企画もしている。

さささんの原画展には一昨年もお邪魔をさせてもらった。

・園外研修

○ 7月29日 青森県カトリック教職員研修会・アピオ青森

「神様の御言葉と御心を伝えるために」 参加6名

講師 聖ウルスラ修道会 Sr 石井 清美先生（ガクタン、エドガル司教様も出席）

○ 8月6日 弘前私立幼稚園教員研修会 参加1名

「幼保小連携教育研修会」話題提供富士見保育所 副所長 藤田 咲江先生

城西小学校 6年担任 外崎 祝子先生

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続ができるよう発表や協議を通して、幼保小連携に関する相互理解を深める。

○ 8月27日 弘前私立幼稚園教員研修会 参加2名

「特別支援教育の理解」

講師 弘前豊学校 竹内 春奈先生（そだちとまなびの支援センター主任）

「特別」ではない日常にある子どもの育ちを支える保育の視点

○ 10月22日 発達支援研修会（青森病院）参加1名

「吃音・言葉の遅れがみられる子に対して家族・支援者が実際にできるサポート」

講師 弘前医療福祉大学保健学部医療技術学科言語聴覚士 小山内 筆子先生

○ 10月22日 弘前私立幼稚園教員研修会 参加2名

「子どもはおもしろい！ 保育はいい仕事」

原点は、子どもを知ることから

講師 りんごの木 子どもクラブ 柴田 愛子先生

- 11月19日 弘前私立幼稚園協会教員研修会 参加1名
『お口の成長と身体はつながっているんだよ』
デンタルオフィスよしだ歯科医 吉田 昭文
- 1月7日 中南地区特別支援連携協議会（担当 黒石養護学校） 参加1名
「支援教育のこれからを考える～特別支援教育は
もうすぐ20年・その現状と課題」
「城東こどもクリニック こどもサポート『はなまる教室』
中村 修 先生
(グループ別協議及び情報交換)

2) 教 育

カトリック精神に基づく教育内容の充実を図る

- 一人ひとりに寄り添い成長を促しながら 心豊かに育む
(保護者から信頼される保育内容・方法の研究)
- ・「遊びで育つ心と体」を掲げているので毎日十分遊び、お互いの関りを確認しながら、子どもの育ちを場を捉えて大切に指導してきた。保護者へは、連絡を蜜にし（連絡帳、電話）成長を確認しながら共に歩んできた。とにかく走るのが大好きな子ども達、毎日鬼ごっこ、かくれんぼ等寒い冬の季節でも汗をかくので着がえをしながら園内を走って楽しく遊んでいる。
- *親子遠足は、9月 弥生いこいの広場はクマの出没の為、市では閉鎖をしたので、板柳町のふるさとセンターでクッキーづくりをして鯉に餌をやったり、遊園地で遊び、足湯を楽しんだ家族もいた。園から20分のところで、現地集合・解散とした。天候に恵まれいいひと時でした。
- *リンゴ狩りは職員の相馬農園で一番大きくて真っ赤なりんごを取らせてもらいその場でおいしく味わった。帰り道、9月遠足に行ったふるさとセンターによって素晴らしい紅葉の中でソフトクリーム食べ、たくさん遊べていい思い出となった。
- *七五三は、カトリックの雰囲気を経験してもらいたいため参観日とし、司式は小松神父様、親子で祝福をしていただき、祝別したアレルギー対応の飴をいただき、特に心に残る祈りの良い機会であった。千歳あめの袋は、自分で製作した。式終了後は、絵画作品展を鑑賞してもらい、魚釣りやビンゴ（園内で体験した虫、収穫した果物、野菜を貼り付けてからスタートした。景品もあってとても喜んだ。
- *待降節は毎日エンゼルチャイムに明かりを灯して、祈りながらのやさしさの発表は、家庭での手伝いだけでなく、園内で友達に対しての温かい関わり等で成長が特に見えた嬉しい期間であった。（一人ひとりを大切に特に心の育ちに配慮しての教育ができた。）
- *クリスマスは来園者の申込を取り（25名）、来賓とともにキャンドルサービスをし、子どもたちの聖劇を見ていただき、共に祈り、待降節の過ごし方を知らせ、これまでの成長を確認してもらった。伸びやかな園児の演技にお褒めの言葉をいただいた。献金は、聖劇後親子で馬小屋に捧げることができてよかった。
- *園は、自然環境に恵まれ季節を感じ、その中で生命の大切さを学ぶ機会が多い。（虫捕り後帰りには自然の中に戻す。よくダンゴムシ探しをしていた。）春は長蕨を炒めて給食に沢山とって全員にあげ、イチゴの収穫、又色々な作物（きゅうり、枝豆、ミニトマト、ジャ

ガイモ、はつか大根)の収穫もあり食育面で季節を感じながら頂いた。浦和の幼稚園からのサツマイモを蒸しておやつにし、無花果をジャムにし感謝していただいた回数が多かった。りんごは毎日給食に、ご近所さんからの柿(干し柿作りもして)おやつにいただき、栗は豊作で 沢山食べ、持ち帰りも何度もした。ザクロも喜んで味わった。

本当に自然がいっぱい、ありがとう(感謝)

(子どもたちはお休みなく登園できているのは、食育からかな?)

*子どもたち多くは、それぞれ抱えているものがあり個別に指導方法を変えながら少しでも元気に自信をもって成長できるように指導している。

*クラスだより「ほし☆の子」毎月発行は、クラスの動き成長の確かめ、担任の思い等を載せての配付はとてもよかった。いつも心あたたかくなります。

二人の教諭は園内環境 教材準備 先々の行事の準備 クラス保育の補佐
その他気付きがあれば積極的な仕事ぶりに沢山助けられた。

3) 広 報 (遊び場提供)

・たんぼぼクラス (未就園児体験クラス)

参加者は親子で十分楽しんで活動をしているので、毎回同じメンバーですが次回も予約して帰宅する。

案内は市役所のホームページに載せているので、それを見て12月新人2組参加

・今年度は、担当者2名で心のこもった素敵なアイデアで開催し参加者は喜んだ。

(県の・特色教育補助金事業として申請している。)

結びに

子どもたちは、走ることが好きで元気いっぱい活動できていて欠席者が少なかった。先にも記しましたが、秋からの朝の自由遊びは、全園児ホールでよく鬼ごっこ、ドッチホール遊びをする。そしてかくれんぼは、上手に隠れるのでなかなか見つからずに探し回る姿は可愛く、この広さで十分遊べている事最高です。兄弟姉妹のような関わりもあり、体調不良を訴える子の頭をなげたり、大丈夫?と声をかけて心配する姿を嬉しく感じた12月初旬のことでした。秋近隣の方々に(10軒の家)栗のプレゼントを届けて地域の方々とのつながりを大切にしました。

創立70周年の年 3月31日幕を降ろします。

皆様方には大変お世話になりました。

私共教職員は、日々協力して積極的に行動に移し、至らない点もあるかと思いますが、とても充実した保育をしてきたと思います。幼児期は目に見えない根っこのようなもの、今は見えませんが、少しずつ栄養を吸い上げて刺激を与えながら健やかに成長できるよう育んできました。

これからも園児、保護者に寄り添い丁寧にそしてそれぞれ少しでも成長できるようあたたかなまなざしで、一日一日を大切に保育をしていきたいと思っております。

2025 年度事業計画の実行結果

2026 年 4 月 21 日 部門名 浦和明の星幼稚園

○ 事業の目標ごとの成果と課題 一覧

	事業の目標	行動（実施）要領	成果○と課題●
全般	<p>1 創立60周年の伝統をつなぐ、幼児教育の充実～つなぐ、つながる～</p> <p>2 建学精神の堅持</p> <p>3 魅力ある職場、教育環境の構築</p>	<p>1 「つなぐ、つながる」を合言葉に、創立60周年の伝統をつなぎ、幼児教育の本質である子どもの「やってみたい」を実現する。</p> <p>2 主体的にカトリック研修に参加し、学園訓が目指す姿「いきいき・のびのび・なかよく」を子ども一人一人の生活に具現化する。</p> <p>3 適材・適所・適量・適給の人材配置を行い、教職員、園児が生き生きと輝く魅力ある職場、教育環境を構築する。</p>	<p>○周年事業を子どもの主体性を伸ばす教材とするために、特別委員会を組織し、行事ごとに「つなぐ、つながる」を意識し、子どもを前面に押し出した事業を行った。</p> <p>○劇遊びから、クリスマス会の聖劇につなぐなど、「やってみたい」が実現し、特に年長児の主体性が高まった。</p> <p>●1学期のお楽しみ会から年長児が主体となって各行事に取り組むことによる、担任の負担の偏りを是正したい。</p> <p>○理事長による聖書講話を全員で受講し、松が峰教会での研修会に本年度11人を派遣し、ほぼ全員が経験できた。</p> <p>○秋津教会を訪問し、野口邦大神父によるミサ及び「教会ってどんなところ」の講話を、全教職員で体験した。</p> <p>○宗教係によるチャペル訪問事前勉強会により、年間を通して教員のカトリックへの理解と実践が進んだ。</p> <p>○東京でのカトリック後継者等研修会に教頭を派遣した。</p> <p>●学園訓と「主体性」のつながりを明らかにすることで、園生活の中で学園訓を身近に感じられるようにしたい。</p> <p>○育休明けの短時間勤務者を、おひさま教室、星の子くらぶ、パピーくらぶなどの未就園児教室担当に充てたところ、子ども保護者からの評判がよく、それぞれの持つ条件や能力を発揮できる職場に近付いてきた。</p> <p>●よい評判による途中転入児が6人と多いが、市平均給与に遠く及ばない賃金では、士気の低下は防ぎきれない。</p>
教育	<p>1 「やってみたい」を持ち、実現する子の育成</p> <p>2 子どもの主体性を育む教育環境の整備と「豊かなところ」を視点にしたカリキュラムの作成</p> <p>3 加算条件研修を实践につなげ、安全・安心な園生活のための園内研修の充実</p>	<p>1 学年研修やビデオ撮影による研究保育を進め、すべての教員が、子どもの「やってみたい」を実現できるようにする。</p> <p>2 主体性を育むように園庭の環境を整備し、園外保育と乳児から、幼稚園、小学校へと滑らかに繋がるカリキュラムを作成する。</p> <p>3 「豊かな学び」の成果や警察、消防などの講習を实践につなぐ園内研修を充実させ、主体的に、安全に生き抜く子を育てる。</p>	<p>○月案作成や振り返りを学年会で一緒に行う学年では、子どもの主体性や教員の指導力の向上が見られる。</p> <p>○研修係が主宰する毎月の園内研修が定着し、教員の困りごとなどが改善に向かっているため、事例研修などより具体的な事例を基に実践的な指導力を身に付けたい。</p> <p>●単発の課題解決に留まらず「やってみたいの実現」など主題に基づく研究保育を継続して、さらに力をつけたい。</p> <p>○各学年が昨年度の「外に出て、働きかける」成果を生かし、積極的に園外に出掛けるカリキュラムを作成して、子どもの主体性を育む機会を保障しようとした。</p> <p>○「星の子の集い」に合わせ、近隣の小中学校5年次教員などを招き、「10の姿」を活用する幼小接続の在り方を検討し、より円滑な接続が実現しようとしている。</p> <p>○保育の質向上のため、公開保育等に延べ8名を派遣し、まず園内公開保育を行うことで共有することができた。</p> <p>●012歳児から小学校へとつながる計画を作成したい。</p> <p>○消防による消防車見学、警察による防犯訓練、バス・地震・火災からの避難訓練の前に、危機管理係を中心に、学年ごとに担任と子どもとで事前訓練を行うことで、自分の安全を自分で守ろうとする子が育とうとしている。</p> <p>○消防署員を招いての避難訓練で避難方法が確定した。</p> <p>●警察の力も借りながら、実践的でしかも子どもをトラウマに陥らせない園独自の不審者からの避難訓練を行う。</p>

募集	<p>1 創立60周年の伝統を生かした新たな保育と乳幼児センター機能の充実</p> <p>2 親の知りたいと園のよさをつなぐ幼稚園見学会や園庭開放の充実</p> <p>3 誰もがよさをつなげる広報活動の促進</p>	<p>1 明の星のよさを大切にしながら満3歳児保育と未就園児親子登園を丁寧に行い、確かな信頼関係を築き園児獲得に努める。</p> <p>2 保護者が欲しい情報が得られ、子どもを通して園のよさが伝わる双方向的な幼稚園見学会や気軽に参加できる校庭開放を行う。</p> <p>3 子どもから教職員、保護者まで誰もが、よさを伝える広報担当者として行動し、園児獲得につなげる。</p>	<p>○満3歳保育に充てた熟練者や短時間勤務者の努力と、未就園児委員会で情報を共有し、園全体で協力することで、多くの親子が満足する保育を実現することができた。</p> <p>○バピーくらぶ、おひさま教室担当者らの働きかけで年少児80名、満3歳児26名の園児を獲得することができた。</p> <p>●チャペルのアトリエやPTA、課外教室の利用も含め、限られた施設を最大限有効に使うために、未就園児教室の実施も含めた総合的な年間行事計画を作成したい。</p> <p>○担当者の努力とアンケート再実施による顔出し許可の増加により、ホームページやInstagramで生き生きとした園児の姿を配信したことで、フォロワー数が2倍に増え、双方向のコミュニケーションも充実してきた。</p> <p>○見学会を1か月前倒し、回数を増やし、未就園児に園庭を開放し、在園生の優しさに触れ合う機会を作った。</p> <p>●未知の人に園を知っていただく方法を開発し実践する。</p> <p>○園外に積極的に出ること、見ていただく機会が増えた。</p> <p>○見学会で「この園がいい」と言って入園する子が増えた。</p> <p>○全教職員、無意識だが子ども、園のよさを伝えている。</p> <p>●公開保育、幼小接続などにより、子どもの主体性を伸ばし、園のよさを広く知って貰えるようにしたい。</p>
財務・管理	<p>1 事業活動収支比率の向上</p> <p>2 保育料無償化事務の効率化</p> <p>3 県、市の補助金の取得と有効活用</p>	<p>1 無駄・無理のないように毎月の高熱水道費を確認し、収支のバランスを改善させ、園児獲得にも大きく影響するトイレのリニューアルや園庭整備など施設・設備を改善する。</p> <p>2 受益者負担を原則に事務効率化を図る。</p> <p>3 本園に該当する補助金を確実に取得し、人材を確保し、インクルーシブ教育に資する。</p>	<p>○毎月の光熱水道料金を確認することで無駄な出費を抑制することができた。</p> <p>○卒園記念品として大型積み木ブロックなどを購入する際、国の補助制度を有効に活用することができた。</p> <p>●本園も含め、学園全体としての業績悪化により、本年度の園庭改修やトイレのリニューアルなどの新規事業は、すべてできなかったが、園児獲得のためにも実現したい。</p> <p>○電子化により預かり保育申込、入退室管理、領収書発行事務が効率的に行えるようになった。</p> <p>●市によって異なる事務の一元化を要望していきたい。</p> <p>○「こども誰でも通園」や「特別支援補助金」などの制度を積極的に活用したため多額の補助金を得ると同時に、多様な働き方の教員の受け皿とすることができた。</p> <p>●人手不足であっても支援員を付けるよう努めたい。</p>
その他	<p>1 持続可能な賃金体系の実現による安定的な人材の確保</p> <p>2 PTAへの啓発と連携</p> <p>3 近隣の小学校との接続、学園中・高との連携の強化</p>	<p>1 市平均並みの初任給や持続可能な賃金体系を実現し、卒園児保護者や実習生など明の星を愛する人を後継者に迎え入れる。</p> <p>2 PTAマリアの会と共に、創立60周年を祝い、伝統を次の世代につなげる。</p> <p>3 幼小教員と子ども同士の交流を深め、架け橋期のカリキュラムを見直すとともにし、学園中・高との相互訪問など連携を強化する。</p>	<p>○育休明け教員2名が戻り、短時間勤務で元教員1名を獲得したが、職員1名が定年退職、教員2名が賃金待遇などの理由に退職することになった。</p> <p>●市平均並みの初任給や持続可能な賃金体系の実現は、園の存続にかかわる大問題であるので必ず実現させたい。</p> <p>●世代交代に向けて人材を確保し続ける必要がある。</p> <p>○緑区でもPTAが存在しない園が増えている中で、企画係によるブーケづくりなど充実した活動を行うPTAに対し、ミーティングに出席し情報提供を行った。</p> <p>●事前推薦制など、よりよい役員選出方法を取り入れたい。</p> <p>○小学校体験に昨年度年長担任を2名派遣するとともに、大牧小教員の来園や園児による大牧小訪問などが実現し、架け橋期のカリキュラムを改善できた。</p> <p>●園児やPTAによるカフェテリア訪問・給食や園児による学園探検が実現したので、園児による中高の授業訪問や学園教職員や中高生による幼稚園訪問や授業実施などの交流を活性化し「近くて近い明の星」を実現したい。</p>

○ 最重視する事業目標の成果と課題 詳述

最重要視する事業目標 創立 60 周年の伝統をつなぐ、幼児教育の充実 ～つなぐ、つながる～

「創立 60 周年の伝統をつなぐ」とは、長い間本園が大切にしてきたことを見直し、価値あるものを継続することである。「幼児教育の充実」とは、今保護者から、社会から求められる幼児教育の内容や方法を研究し、積極的に取り入れ質の向上を図ることである。「～つなぐ、つながる～」とは、本年度の合言葉であり、建学の精神に基づいて、教職員と、次代を生きる子どもと、保護者と本園及び其々をつなぐことで、これからの社会とつながることである。そこで、具体的には

具体的実行策	詳細
1 伝統をつなぐ	(1) 建学精神を具現化した「いきいき・のびのび・なかよく」と生活をつなぐ (2) 創立 60 周年事業・式典を通して明の星のよさをつなぐ (3) 豊かな環境や豊富な人材、充実した施設・設備と園生活をつなぐ
2 幼児教育を充実させる	(1) 日々の保育で「やってみたい」を保証し、質を高める (2) 行事を通して、「やってみたい」を実践し、自らを表現する機会を充実させる (3) 公開保育に向けて園内研修を複数年に渡って計画的に進める
3 これからの社会とつながる	(1) 「親子で幼稚園」を進め、地域の乳幼児教育センターとして保護者とつながる (2) 乳児期、幼児期、架け橋期のカリキュラムで小学校とつながる (3) 給与加算条件研修を実践とつなげ、これからの社会とつながる

1 伝統をつなぐ 2 幼児教育を充実させる 3 これからの社会とつながる の3つの柱を立てた。

- ここでは、
- 1 (1) 建学精神を具現化した「いきいき・のびのび・なかよく」と生活をつなぐ
(2) 創立 60 周年事業・式典を通して明の星のよさをつなぐ
 - 2 (3) 公開保育に向けて園内研修を複数年に渡って計画的に進める
 - 3 (2) 乳児期、幼児期、架け橋期のカリキュラムで小学校とつながる
(3) 給与加算条件研修を実践とつなげ、これからの社会とつながる において詳述する。

1 建学精神を具現化した「いきいき・のびのび・なかよく」と生活をつなぐ

本園最大の課題は、いかに建学精神「正・浄・和」と子どもの生活をつなぐか、「いきいき・のびのび・なかよく」の姿を園児に示すかにある。そのために、①理事長によるカトリック研修会。②チャペル訪問前事前勉強会。③秋津教会での園外カトリック研修会。④さいたま教区カトリック幼児教育連盟研修会へ教職員派遣等を行った。



4 月のお誕生日会で園長による呼名の後、お祈りをする子、講話と続く 恒例の理事長による「聖書を使ったカトリック研修会」7/24 全員参加

1 建学精神の理解と実践に向けて

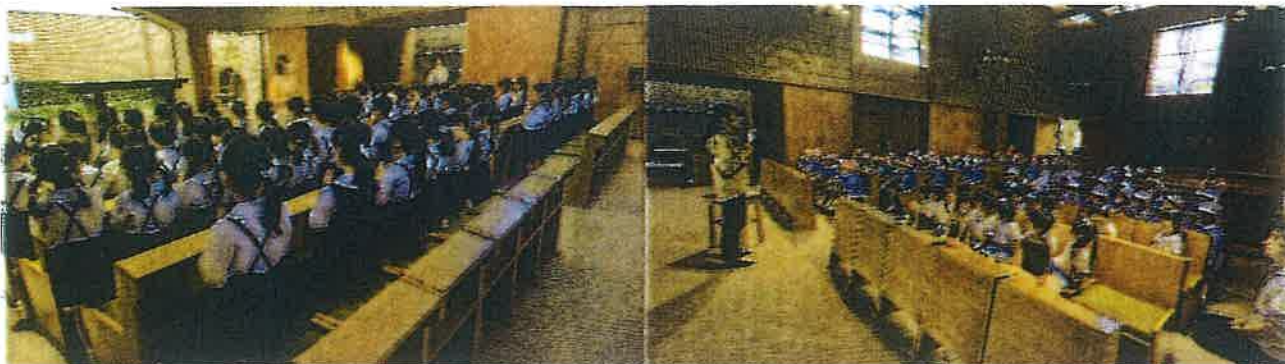
(1) 園だよりの巻頭文やお誕生日会の園長講話

毎月、全園児が集うお誕生日会では、お祈りや園長による誕生月園児の呼名、講話、担当教員のお楽しみを行い、誕生を祝ってきた。園長による呼名は、コロナで集えない時、一人一人を大切にしようと放送で始めた。

月	園だよりの内容	お誕生日会講話内容
4	本年度の目指す姿 創立60周年「つなぐ、つながる」	つながるには、ご挨拶
5	ゴールデンウィーク-心と心を「つなぐ」体験を	挨拶は心を表す信号機
6	心を表す信号機が「青」でありますように	「やってみよう」をするということは(他人のせいにならない)
7	後始末までできて「やってみよう」ことに	「やってみよう」には-計画を立てて過ごす
8	たくさん不思議を見付ける夏休みに	変化に気付き「不思議だなあ」と思う気持ちを大切に
9	創立60周年の2学期-記念式典・観劇会	心がつながる-一生忘れられない運動会に
10	60周年の運動会「地域とつながる」	記念式典・観劇会-つなぐ、つながる幼稚園
11	記念式典・観劇会-子どもたちの笑顔はじける一日に	心を込めてお祝いする60年目のクリスマス会
12	「やってみよう」を表現できるクリスマス会に	本当の優しさ-相手の立場に立って考え行動する
1	目と目を合わせて「有難う」の気持ちを伝える	まとめの3学期 今までできなかったことに挑戦して、出来るように
2	本年度のまとめに向けて	卒園する年長さんから目が離せません
3	日々成長するお子さんから目が離せません	年長の姿を、覚えておいて進化するように

(2) 宗教係によるチャペル訪問事前勉強会

信者で宗教係教員による発案で、チャペル訪問前後の子どもの指導に役立てようと、至光社のカトリック絵本「こどものせかい」などを使った勉強会を毎月開催した。



チャペルでお祈りする年長・年中組-毎月宗教係の教員から話を聞く

2学期から始まった年少組チャペル訪問-宗教係の担任からのお話を聞く

4/10	年中・長 聖母月と、マリア様の心の歌詞の意味を知る	9/8	ひ・少 マリア様を知る 中・長 マリア様の誕生日を祝う
5/30	年中・長 神様が作った世界を知り、賛美する	10/25	ひ・少 チャペル内を見る 中・長 マザーテレサの行いを知る
6/20	年中・長 「主の祈り」の意味を知る	11/13	全学年 七五三の祝福 矢吹貞人助祭様から祝福していただく
7/14	年中・長 「迷子の羊」から神様の大きい愛に気付く	12/8	ひ・少 クリスマスまでの過ごし方 中・長 待降節の過ごし方

2 園外に出たカトリック研修会の充実

(1) 東京近郊のカトリック教会を訪問

昨年度、PTA研修補助費を活用して聖イグナチオ教会を訪問し、増田健神父のお話しを伺ったのに続き、今年は、秋津教会に出掛け、野口邦大神父の「教会ってどんなところ」についてお話を伺い、ミサを経験した。



本園教員も伴奏や朗読で協力して行った野口邦大神父によるミサ



カトリック東京大司教区所属の野口神父から祝福を受ける教職員

(2) 「さいたま教区カトリック幼児教育連盟」主催の園長・後継者や若年教員研修会

宇都宮の松が峰教会で開催される研修会に、園長・後継者、若年教員に限らず、毎年以下のように教職員を派遣し、広く教区内幼稚園の先生方と交流し、幼稚園におけるカトリック教育の実践について話し合ってきた。

2024.6.22	若年者	榎本、野本、磯部、條々	2025.6.7	若年者	園長、西澤、枝廣、久保田、高山、尾形
2025.1.18	後継者	園長、坂本、代、早川、鈴木、三枝	2026.1.18	後継者	園長、町田、片桐、菊地、中島、小野寺、村井



1947年復元された大谷石造りの日本では珍しい双塔を持った聖堂

大谷石をふんだんに使った聖堂で高橋神父から祝福を受ける教職員

3 成果〇と反省●

- 理事長講話は、聖書の原典に当たれるので、言葉の背景までよく分かり毎回楽しみであると大好評である。
- 園長による誕生月園児の呼名は、「ハイ」という返事に一人一人の思いが詰まっており、子ども理解に役立った。
- 宗教係は、勉強会を開くことで改めて基本に立ち返れると言っており、担任からはどんな思いでチャペルに行き、何をするか事前に分かるので、カトリックへの理解のみならず、園児の指導に役立つと好評である。
- カトリック教会訪問は、教職員全員が一堂に会し現地の教会で雰囲気を感じながら学べるので、その後の懇親会を含め好評である。担当者は、来年の予定までいくつか考えており、みんなの期待に応えようとしている。
- 松が峰教会の荘厳さの中で、カトリックへの思いや理解が深まったので、いかに実践するか共有したい。
- 改めて園だよりや園長講話を見てみると、本年度のテーマ「つなぐ、つながる」を通して子どもの主体性を大切にしようとするものが多く、直接的に学園訓に関するものはなかったため、もう少し意図的に取り上げたい。

2 創立60周年事業・式典を通して明の星のよさをつなぐ

周年事業を、子どもの主体性を伸ばすための教材とするため、式典のみ単発で行うのではなく、年間の各行事に「60周年記念」と冠を付けて実施することで、一年を通して明の星のよさを知り、次代につなぐように考えた。

1 60周年委員会の実践から

周年事業を子どもの主体性を伸ばす教材とするために、特別委員会を組織した。委員には、各学年から周年を経験していない若手教員とベテラン職員を起用した。行事ごとの担当を中心に全員で協力して記念事業を進めた。

60周年	最初週	園長、教頭、菊地、條々、榎本、久保田	研修係	第2週	園長、教頭、片桐、須賀、中島、村井
連絡係	第3週	園長、教頭、町田、鈴木、小野寺、三枝	未就園児	最終週	園長、教頭、早川、磯部、染谷、松本、三枝

回	月日	曜	内容	回	月日	曜	内容
1	4/9	水	顔合わせ、年間の予定確認		11/9	日	記念式典・観劇会・祝賀会(菊地)ピンゴ大会
2	5/7	水	式典・観劇会(教頭)、仕事割振り 6/22 理事長	8	11/13	月	式典・祝賀会振返り、クリスマス会段取り確認
3	6/3	火	招待者洗出し(久保田)依頼、7/7 理事長打合せ		12/13	土	クリスマス会(磯部)第3部教員のコンサート
4	7/11	金	招待者決定、作成、式・祝賀会の内容・方法決定	9	12/18	木	振返り、ニューイヤーコンサート作品展の段取り
5	8/26	火	招待状発送(9月中発送、10月締切)。式典周知		1/9	金	ニューイヤーコンサート(第5回見学会を兼ねる)
6	9/19	金	運動会段取り。祝賀会席割り、記念誌(園長)	臨	1/19	月	ニューイヤーコンサート振返り、作品展段取り
	10/11	土	運動会(榎本)踊り、風船飛ばし。記念誌入稿	10	2/7	土	作品展(條々)来場者からメッセージ
7	10/17	金	運動会振返り、式典打合せ、祝賀会段取り・席割	11	2/13	金	作品展の振返り
臨	10/27	月	10/24 理事長打合せ受け、式典・祝賀会詳細決定	12	3/17	火	業全体の振返り。次の10年に向けての提言作成。

2 記念事業を通して

(1) 運動会



- ① 日 時 令和7年10月11日(土) 8:15~12:00
- ② 場 所 明の星総合運動場
- ③ 参加者 園児、未就園児、卒園生、来賓、保護者、**地域の方**
- ④ 内 容 運動会演目終了後、参加全ての子どもで会場中心に集い、担任と一緒にジャンボリミッキーを踊る。踊り終わった時点で、業者と職員により200個のバルーンリリースを行った。(当初、花火を上げる案もあった。子ども一人一人の手で飛ばさせたかったが断念)

(2) 記念式典・観劇会・祝賀会



- ① 期 日 令和7年11月9日(日) 10:00~15:00
- ② 場 所 ジュビリホール・カフェテリア
- ③ 参加者 園児、未就園児、卒園生、来賓、保護者、**地域の方**
- ④ 内 容 理事長先生のご助言も得て全園児参加の方向で実施。コロナで見られなくなった劇団銀河鉄道による着ぐるみ人形劇と抱き合わせた。祝賀会は、同日午後來賓と新旧教職員とでカフェテリアにて実施。持ち寄った物品を中心に景品としてビンゴ大会を開催した。

(3) クリスマス会



- ① 期 日 令和7年12月13日(土) 9:00~16:00
- ② 場 所 ジュビリホール
- ③ 参加者 園児、未就園児、来賓、保護者、**地域の方**
- ④ 内 容 第1部聖劇は、今年から始まった満3歳児「ひかり組」も含め4学年構成で実施。第2部セレブレーションは、保護者で声楽家の竹内さんと「しずけき」を合唱。第3部、サンタからのプレゼントの前に、教員が「ジングルベル」など客席まで出向いて演奏した。

(4) ニューイヤーコンサート



- ① 期 日 令和8年1月9日(金) 10:00~11:00
- ② 場 所 ジュビリホール
- ③ 参加者 園児、未就園児、保護者、**地域の方**
- ④ 内 容 第5回幼稚園見学会を兼ねてニューイヤーコンサートとして実施。保護者で声楽家の竹内さんとそのお友達によるミニオーケストラの演奏でクラシックの名曲に触れ、全員で園歌やドレミの歌を、年長組がカレンダーマーチをミニオーケストラの伴奏で歌った。

(5) 作品展



- ① 期 日 令和8年2月7日(土) 9:00~12:20
- ② 場 所 遊戯室、保育室
- ③ 参加者 園児、未就園児、保護者、**地域の方**
- ④ 内 容 幼稚園の誕生を祝い感謝の気持ちを込めて、園で一番楽しい場所で遊ぶ自分を表現した。「ありがとう」の気持ちをお菓子のカードに書いて、夢の園舎を作る。応援に「ふっかちゃん」始め、「コバトン」「さいたまっち」そして「つなが竜ヌウ」が駆けつけた。

3 成果〇と反省●

- 他の特別委員会を含め多くの教職員が、計画作りの段階から園運営に関わることになり、参画意識が高まった。また、周年行事を経験していない若手は、知らないがゆえに主体性を発揮し、斬新なアイデアを繰り出し、ベテラン職員は隙間時間を使って地道に仕事を進め、思いと現実が噛み合う理想的な運営ができた。
- 子どもと教職員が、園の60年の歴史について知ることができる記念誌を作成し、園だよりや講話で伝えたことで、園への理解が進み、園を築き上げた先人への感謝の気持ちと受け継ぐ思いを持つきっかけとなった。
- すべての事業、保育で、子どもの「やってみよう」主体性を育てることに重点を置いてきた。年少は真似る、年中は相談して進める、年長は自分たちで園生活を創るなど段階的に重点的に主体性の芽を育てていきたい。
- 様々な事業が実施できたのも、PTAによる周年事業積み立て、学園から補助のお蔭であった。
- 子どもに任せる部分が多くなると、多くの時間がかかり、特に上の学年の負担になりやすい。全園で仕事量や時間を公平に分ち合えるような方策を構築する必要がある。

3 公開保育に向けて園内研修を複数年に渡って計画的に進める

少子化にあっても、選ばれる園であり続けるためには、保育の質の維持・向上が欠かせない。そのためには、時代の要請に応えると共に、園内研修を充実させることが重要である。これまで、作品展鑑賞研修会を手始めに教育課程委員会を組織して、「主体的・対話的で深い学び」を実現するカリキュラムの改訂を行ってきた。同時に、園の課題を教職員が見つげ出し、解決に向けて専門の指導者の助言を得て、園内で解決する研修を行ってきた。また、昨年度から「外に出て、働きかける」をテーマに、様々な園外保育に取り組み、自分を表現する心と力を育ててきた。ここでは、昨年度の反省を受けて実施した（予定の）本年度の園外保育を一覧にして、その傾向と課題をあぶりだす。また、本年度の園内研修計画をもとに、新たな研修課題、「公開保育に向けて園内研修を複数年に渡って計画的に進める」ために実施した各園に出向いて公開保育を参観した報告をもとに、本園のよさを生かした公開保育の在り方について検討する予定の園内研修の内容も記す。

1 園外保育の実際と園内研修の実際

年	回	月日	方面	ねらい(内容)
3			学園内	毎月月末に学園内を巡る
年少	1	6/9	学園内	
	2	11/6	見沼氷川公園	園バスで出かけ、ドングリを拾う
	3	11/20	田んぼ	年長に手を引かれ学園内を巡る
	4	11/27	大六天公園	イチョウの落ち葉で遊び、掃除する
	5	1/22	大間木公園	真冬の公園で音を楽しむ
	6	2/19	大六天公園	みんなの公園の使い方を体験する
	7	3/5	田んぼ	田んぼの畦道に春を探す
年中	1	5/28	田んぼ	田植え直後の田んぼで生き物を探す
	2	6/4	大間木公園	水たまりやタンポポの綿毛で遊ぶ
	3	6/18	田んぼ	ザリガニやオタマジャクンを探す
	4	7/2	田んぼ	青々とした稲の成長を見る
	5	9/11	田んぼ	黄色くなり、米ができた稲を見る
	6	11/12	大間木公園	どんぐり拾い、稲刈り後の藁を見る
	7	2/25	田んぼ	真冬の田んぼで、音を楽しむ
	8	3/11	ガード	飼育しているカタツムリをかえす
年長	1	5/8	学園内	年少を案内するためのマリア様探し
	2	6/2	田んぼ	田植え直後の稲や生き物を探す
	3	6/9	学園内	年少の手を引いて学園内を巡る
	4	10/21	大牧小	業間休み、運動会練習を見学する
	5	1/15	大牧小	1年生の授業を見学、一緒に遊ぶ
	6	1/20	大牧小	1年生の生活科授業参加、一緒に遊ぶ

回	月日曜	内容
1	4/7(月)	カトリック研修(早川)
2	5/19(月)	園外保育の成果と課題と解決策を考える
3	6/6(金)	教職員研修会 ・幼児期運動指針を使った運動(片桐) ・本年度最重視する課題の具体策(園長) ・配慮を要する園児理解(教頭) ・救命救急法講習会(13:00~16:00)
		6/28(土)
4	7/24(木)	聖書を使ったカトリック研修(理事長)・
	8/19(火)	幼児教育学会実践学会(~8/20東京家政大)
5	8/25(月)	幼小交流会(星の子の集いを見て貰い協議)
6	9/9(火)	素話の楽しさを味わう
7	10/24(金)	教職員研修会(秋津教会で野口神父の講話)
8	11/11(火)	クリスマス会に向けて(早川)
9	12/19(金)	作品展に向けて(尾間木小丹後雅博先生)
	1/6(火)	新年会 ・身体を動かして仲良くなろう ・来年度からの研修、公開保育に向けて
10	1/14(水)	60周年展示作成
11	2/7(土)	作品展鑑賞研修会(大牧小丹後雅博先生)
12	3/19(木)	振り返り



5回目の見沼田んぼ、勢い余って田んぼに突っ込み手は泥だらけ



作品展に向けて丹後校長を招いての実技研修会 先が見えてきた!?

2 保育の質を高める公開保育に向けて

公開保育に向けて、さいたま市こども未来局幼児未来部が主催する「公開保育研修会」等に教員を派遣した。その報告をもとに、本園のよさを最大限に生かした公開保育の在り方について、全教職員で協議する予定である。

- 1 日時 令和8年1月6日(火) 9:30~12:00
- 2 研修名 新年会研修Ⅱ「保育の質の向上と研修の在り方」
- 3 内容 園外視察や研修に参加しての感想・意見の発表(一人5分以内) 9:50~10:30
 - ア 幼児教育実践学会 25. 8. 19 東京家政大学 (小野寺)
 - イ 染谷幼稚園 25. 10. 30 見沼区染谷 (園長、片桐、鈴木、小野寺)
 - ウ マロカル保育園 25. 11. 21 緑区東浦和 (教頭、早川)
 - エ 湘南白百合幼稚園 25. 11. 27 藤沢市片瀬海岸 (教頭)
- 4 保育の質の向上と公開保育について(園長) 10:40~10:55
- 5 グループ協議 「どの時期に何を公開するか」「公開保育に向けて、来年度どんな研修をしたいか」 11:00~11:30
- 6 発表 各グループ2分 11:30~11:40
- 7 園長まとめ 11:40

3 園内研修を複数年に渡って計画的に進める

本園の研修内容を見ると、スキルアップや保育者の困りごとを解消するために実技的な内容や新たな学びにつながるものが多い。そこで、自分たちの保育を振り返ったり、価値観をすり合わせたりするのを始め、複数年に渡って、テーマを決めて研修することも大切にしたいと考えた。具体的には、来年か再来年、市の「公開保育研修会」に手を挙げ、それに向けて、例えば複数回指導に来ていただいている東京成徳大学の坪井瞳教授にお願いしてどのような形で、何を売りに公開保育をするかなどをご指導いただくなどの方策が考えられる。

4 成果○と反省●

- 地の利を生かした園外保育が充実してきて、子どもたちが主体的に対象に関わる姿が見られるようになった。
- 園内研修の課題、他園の公開保育をもとに、本園のよさを生かした研修・公開保育の在り方の理解が深まった。
- 是非参会者から直接意見を伺いたいが、バス通園により降園に時間が掛かるなどの課題が山積している。

4 乳児期、幼児期、架け橋期のカリキュラムで小学校とつながる

本園では、一昨年の夏休み、丹後校長先生のご厚意で、本園の教員全員が尾間木小に出掛け、小学校の様子を見せていただき、卒園生のその後について幼小教員で情報交換を行った。昨年度から、さいたま市でも「架け橋期のカリキュラム」を幼小協働で作成するようになった。具体的には、本園の該当校の大牧小のカリキュラムに本園の年長組の年間活動計画を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に分けて配列するものである。また、本年度は、卒園生が集う「星の子の集い」を、市教委主催の「小中学校教員幼児教育施設等体験」で来園する小中学校の先生に見ていただき、その後幼小中教員で、「10の姿」の活用を含む意見交換会を行った。

1 園を開き小・中学校とつながる

(1) 小学校へ園を開くー保育者小学校研修

毎年、課業日の2日間、就学先の小学校に、前年度に年長組を担当した教員を派遣している。授業中、卒園生が想像以上に挙手をしていたり、反面、授業のスピードに付いていけなかったり、「園で気になる子は、その時点で保護者を啓発する必要がある」と指摘されたりなど時間で区切られる小学校生活を、そこで奮闘活躍する卒園児の姿を目の当たりにし、幼小接続の大切さを体感している。

年度	派遣教員 (行先)
R 5	楠本 (大牧小)、今村 (芝原小)
R 6	中島 (尾間木小)、菊地 (美園小)
R 7	片桐 (尾間木小)、野本 (大牧小)

(2) 小・中学校教員に園を開くー5年経験者「保育・幼児教育・療育体験研修」

公立学校の夏季休業中の1日間、小・中学校の教員が幼児教育を体験するものである。夏季保育や預かり保育等幼稚園の一端は理解して貰えると考え、毎年受入れている。本年度は、「星の子の集い」の日程を中心に募集したところ、近隣の小中学校5年次教員8名が参加した。参加教員からは、思っていた以上に子どもたちが自分でできることに驚いたり、子ども理解の大切さや遊びを通して学ぶ幼児教育の神髄に気付いたりなど、大きな学びがあったとの声が聞かれた。課業日に実施して貰えれば、更に幼稚園への理解が進むと考える。

(3) 園を開き小・中学校とつながるー卒園児の姿を通した幼小中教員交流会

8/25 (月)「星の子の集い」に参加した卒園児の困り事などを参考に、資質・能力をいかにつなげるか幼稚園や小学校で、今できることを協議し、架け橋期のカリキュラムの更なる充実を図るために、右のメンバーで話し合った。

	司会	発表	記録	
A	菊地	須賀	池田 (美園中英語)	緒方 (大牧小1年主任)
B	野本	町田	武藤 (大牧小1年)	長谷川 (尾間木小1年)
C	片桐	染谷	榎本	松本、高藤 (尾間木小1年)
D	中島	早川	篠々	本倉 (美園小1年)
E	小野寺	磯部	枝廣	吉田 (美園小6年)
F	鈴木	松本	西澤	笠原 (尾間木小6年)



「星の子の集い」で卒園児の語る小学校での困り事を聞き取る参会者 園児からの聞き取りや実情をもとに「10の姿」の活用について話し合う

その後、視察していただいた市幼児教育コーディネーター安東英里佳先生と宍戸貴久市教委教育課程指導課係長より講評をいただいた。他に、幼児政策課の本名哲郎主査、書上純子主査にも参加していただいた。

2 4年間を見通したカリキュラムの編成と実践

取り敢えず架け橋期のカリキュラムは作成したが、毎年実践を振り返り改善していくことが大切である。同時に、本年度から始まった満3歳児ひかり組から、子どもの「やってみよう」をいかに保障し、育てていくか4年間の育ちを見通したカリキュラムを明確にし、小学校へとつなぐことが急務である。

3 成果〇と反省●

〇保育者の小学校体験や小中学校教員の幼児教育体験など様々な方法で、幼小の人的交流を図ったので、お互いの理解や相談しやすさなどが進んだのは間違いない。また、中学生の職業体験 (未来くるワーク) で本年度も6校50名の生徒に3日間の幼稚園体験をして貰うなど、園を開くことで理解を得ることにつながった。

- 公開保育と絡めて小学校の校長始め多くの先生方に、幼稚園に足を運んでいただき、「10の姿」を通して互いの教育について摺り合わせることで、子どもたちの資質・能力を最大限に伸ばすよう努力したい。
- 満3歳児保育も一年経とうとするので、4年間を見通したカリキュラムを作成し、小学校へとつなげたい。

5 給与加算条件研修を実践とつなげ、これからの社会とつながる

保育士との賃金格差やそれ以上に他幼稚園との賃金格差が著しい本園にとって、保育の質の維持・向上のためには、教職員確保のためにも、給与条件の向上は絶対に外せない。県の処遇改善事業の内、継続的な賃上げによるものの負担率が1/4から1/8になり、教員のキャリアアップ等を目的としたものが新設された。そこで、それらを活用して、処遇改善を行い、これからの社会でも継続できる園経営を実現しようとするものである。

1 処遇改善への取組

本園では、2003（平成15）年4月1日の給与表を使っている。それは、年功序列時代の初めは低く昇給停止まで上がり続けるものであり、初任者の給与は極めて低く抑えられている。専任教職員には12,000円の地域手当が付くものの、初任者等特別専任教職員には、地域手当が付かず、賞与も専任の1/2という極めて低いものである。2022（令和2）年、私立幼稚園運営費補助金における教職員の処遇改善事業により、園負担が1/4となった。また2025（令和7）年負担率が1/8となったのを機に、以下のような処遇改善を行った。

期日	対象者	月額	条件	根拠
2022.4.1	若年教員	8,000	4大卒業9年目（2級12号）までの教員	国の制度で、園負担率が1/4となった
2025.4.1	若年教員	12,000	補助対象年齢を越えた教員の給与が、対象者と1年だけ逆転すること、園長と預かり保育担当者以外が補助対象であるから	国の制度で、園負担率が1/8となった園の負担率が半分になったので、これまでの負担で2倍の処遇改善ができるので、広く教職員の処遇改善に資するため
	若年教員を除く全ての教職員	5,000		

2 成果〇と反省●

- 〇国の政策を積極的に取り入れたことで、若年教員の給与水準を世間並とはいかないが改善することができた。
- 国の動向を注視しキャリアアップ研修加算も積極的に取り入れ、資質を上げ給与も上げる経営を目指したい。

6 まとめ

「創立60周年の伝統をつなぐ、幼児教育の充実 ～つなぐ、つながる～」というテーマのもと、遊びを通して子どもの主体性を育てること、優しさを持ちながらも自分を表現できることを目指してきた。

周年事業の大きな成果は、

- ① 若い教員が、自由な発想でどうすれば子どもが楽しいか、喜ぶか、ある意味自分自身の「やってみよう」を実現できたことかも知れない。子どもたちは大喜びしていたが、どこまで感動し、深く心に刻んだかは定かではない。いつも以上に楽しい60周年の幼稚園であったことは、保護者の感想からもうかがい知れる。
- ② 「つなぐ、つながる」として広く地域に門戸を開き、これまでゆかりのなかった方々に園のよさを知っていただいたことである。
- ③ 最大の収穫は、何をつなぐのか、何でつながるのか、明の星の伝統が何か分かったことである。この地に学園を開こうとした時、地権者に対して感謝の気持ちを込めてまず、試験なしで入れる幼稚園をつくった。「ありがたい」という感謝の気持ちこそ、明の星が大切にしてきた伝統ではないだろうか。園では昼食時に「ご用意有難うございました」という言葉をよく耳にする。「ありがとう」という思い、それはカトリックの愛の精神に通じるものであろうし、明の星の「宝物」だと再認識した。

少子化にあって2年続けて前年度より多くの新入園児を獲得できている。これも、保育の質の向上を目指し、周年事業を通して園を開き、数多くの人に明の星の「宝物」をご理解いただいたおかげであろう。今後更に、様々な形で園を「ひらく」ことで、園の可能性と裾野を広げた新規開拓による持続可能な幼稚園経営を進めたい。

1 当該年度の主な財務指標の達成状況(各学校等の目標と達成状況) (単位:%)

比率名	部門	青森短大	青森中・高	青森幼稚園	弘前幼稚園	浦和中・高	浦和幼稚園
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
人件費比率	目標	57.0	59.1	123.0	—	49.4	57.4
	実績	138.5	65.5	80.1	—	50.8	56.1
人件費依存率	目標	137.0	134.1	232.7	—	78.8	106.6
	実績	290.3	150.2	85.1	—	80.7	124.3
事業活動収支比率	目標	150.2	96.6	180.9	—	95.9	95.2
	実績	273.0	102.5	131.4	—	103.6	90.9

2 主な財務指標の経年変化一覧(事業活動収支による)

主な財務比率	計算式	2021年度 (%)	2022年度 (%)	2023年度 (%)	2024年度 (%)	2025年度 (%)
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{事業活動収入}}$	58	62	60	61	67
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	108	116	110	116	128
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{事業活動収入}}$	32	32	35	35	34
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{事業活動収入}}$	14	12	12	12	12
事業活動収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	116	118	131	112	123

3 主な財務指標の経年変化一覧(貸借対照表による)

計算書区分	会計年度	2021年度 (%)	2022年度 (%)	2023年度 (%)	2024年度 (%)	2025年度 (%)	備考
	構成比率名						
貸借対照表	自己資金構成比率	70	71	72	72	71	注 参照
	固定資産構成比率	91	92	95	92	92	固定資産/総資産
	流動資産構成比率	9	8	5	8	8	流動資産/総資産
	流動比率	165	142	99	129	135	流動資産/流動負債
	固定負債構成比率	24.5	23.3	22.3	22.1	22.4	固定負債/総資産

注：自己資金構成比率=(基本金+繰越収支差額)/総資産

3.財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度
固定資産	6,935,346	7,331,370	7,726,061	7,841,493
流動資産	635,341	614,353	449,188	718,578
資産の部合計	7,570,687	7,945,723	8,175,249	8,560,071
固定負債	1,695,070	1,754,616	1,823,055	1,995,543
流動負債	468,903	474,818	451,663	504,280
負債の部合計	2,163,974	2,229,434	2,274,719	2,499,823
基本金	15,115,111	14,981,169	15,051,375	14,660,420
繰越収支差額	△ 9,708,397	△ 9,264,879	△ 9,150,845	△ 8,600,172
純資産の部合計	5,406,713	5,716,289	5,900,529	6,060,247
負債及び純資産の部合計	7,570,687	7,945,723	8,175,249	8,560,071

イ) 財務比率の経年比較

(単位：%)

比 率	計算式	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	135.5	129.4	99.5	142.5
減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額}}{\text{減価償却資産取得価額}}$	60.6	57.9	56.3	54.7
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	97.7	98.1	100.0	97.3
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	40.0	39.0	38.6	41.2

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度
学生生徒等納付金収入	1,115,642	1,143,757	1,199,515	1,211,395
手数料収入	65,669	66,115	69,796	71,011
寄付金収入	83,147	81,800	84,353	91,978
補助金収入	682,456	656,993	668,936	678,774
資産売却収入	0	30,391	520	400
付随事業・収益事業収入	82,712	85,029	87,344	94,165
受取利息・配当金収入	280	83	2	2
雑収入	90,894	95,528	48,281	126,826
借入金等収入	100,000	100,000	0	0
前受金収入	212,222	236,938	233,314	248,415
その他の収入	92,899	160,571	123,978	93,098
資金収入調整勘定	△ 333,117	△ 333,039	△ 325,019	△ 364,498
前年度繰越支払資金	494,276	352,204	574,094	694,128
収入の部合計	2,687,083	2,676,374	2,765,119	2,945,698

(単位：千円)

支出の部	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度
人件費支出	1,380,063	1,324,210	1,322,927	1,399,531
教育研究経費支出	361,182	389,928	404,843	376,659
管理経費支出	200,024	192,721	200,326	223,568
借入金等利息支出	9,043	10,258	11,458	12,655
借入金等返済支出	187,688	171,088	171,088	171,088
施設関係支出	5,057	30,417	169,837	122,106
設備関係支出	16,359	82,153	93,159	60,595
資産運用支出	0	2	1	1
その他の支出	32,161	29,935	58,777	43,596
資金支出調整勘定	△ 23,678	△ 48,617	△ 19,503	△ 38,199
翌年度繰越支払資金	519,179	494,276	352,204	574,094
支出の部合計	2,687,083	2,676,374	2,765,119	2,945,698

イ) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度
教育活動による資金収支				
教育活動資金収入計	2,077,442	2,090,131	2,108,501	2,240,038
教育活動資金支出計	1,941,269	1,906,860	1,928,083	1,999,759
差引	136,173	183,271	180,417	240,278
調整勘定等	△ 46,346	△ 29,764	17,961	△ 34,210
教育活動資金収支差額	89,826	153,507	198,378	206,068
施設整備等活動による資金収支				
施設整備等活動資金収入計	49,080	69,483	50,247	34,513
施設整備等活動資金支出計	21,417	112,570	262,997	182,702
差引	27,662	△ 43,087	△ 212,750	△ 148,189
調整勘定等	△ 3,000	37,968	△ 25,306	8,918
施設整備等活動資金収支差額	24,661	△ 5,119	△ 238,057	△ 139,271
小計（教育収支 + 施設整備等収支）	114,488	148,387	△ 39,678	66,796
その他の活動による収支差額				
その他の活動資金収入計	110,296	184,059	13,188	15,051
その他の活動資金支出計	199,881	190,375	195,399	201,881
差引	△ 89,584	△ 6,316	△ 182,211	△ 186,830
調整勘定等	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	△ 89,584	△ 6,316	△ 182,211	△ 186,830
支払資金の増減額	24,903	142,071	△ 221,889	△ 120,033
前年度繰越支払資金	494,276	352,204	574,094	694,128
翌年度繰越支払資金	519,179	494,276	352,204	574,094

ウ) 財務比率の経年比較

(単位：%)

比 率	計算式	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度
教育活動資金 収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	4.3	7.3	9.4	9.2

③事業活動収支計算書関係

ア) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度
事業活動収入の部				
学生生徒等納付金	1,115,642	1,143,757	1,199,515	1,211,395
手数料	65,669	66,115	69,796	71,011
寄付金	41,272	51,420	56,235	59,051
経常費等補助金	681,446	648,341	649,679	677,701
付随事業収入	82,712	85,029	87,344	94,165
雑収入	90,894	95,528	48,281	126,826
教育活動収入計	2,077,637	2,090,191	2,110,852	2,240,151
事業活動支出の部				
人件費	1,425,874	1,324,210	1,322,927	1,399,531
教育研究経費	715,300	755,638	760,706	717,493
管理経費	256,154	248,895	255,276	272,958
徴収不能額等	0	0	161	0
教育活動支出計	2,397,329	2,328,744	2,339,071	2,389,983
教育活動収支差額	△ 319,692	△ 238,552	△ 228,218	△ 149,831
教育活動収支				
事業活動収入の部				
受取利息・配当金	280	83	2	2
その他の教育活動外収入	0	0	0	0
教育活動外収入計	280	83	2	2
事業活動支出の部				
借入金利息	9,043	10,258	11,458	12,655
その他の教育活動外支出	0	0	0	0
教育活動外支出計	9,043	10,258	11,458	12,655
教育活動外収支差額	△ 8,763	△ 10,174	△ 11,456	△ 12,653
経常収支差額	△ 328,455	△ 248,727	△ 239,674	△ 162,485
特別収支				
事業活動収入の部				
資産売却差額	0	26,758	519	399
その他の特別収入	43,260	39,276	80,809	34,660
特別収入計	43,260	66,034	81,329	35,060
事業活動支出の部				
資産処分差額	1,201	1,548	1,358	384
その他の特別支出	23,178	0	13	0
特別支出計	24,380	1,548	1,372	384
特別収支差額	18,879	64,486	79,957	34,675
基本金組入前当年度収支差額	△ 309,575	△ 184,240	△ 159,717	△ 127,809
基本金組入額合計	△ 141,539	△ 62,234	△ 391,838	△ 230,793
当年度収支差額	△ 451,114	△ 246,474	△ 551,555	△ 358,602
前年度繰越収支差額	△ 9,264,879	△ 9,150,845	△ 8,600,172	△ 8,250,181
基本金取崩額	7,596	132,440	882	8,611
翌年度繰越収支差額	△ 9,708,397	△ 9,264,879	△ 9,150,845	△ 8,600,172
(参考)				
事業活動収入計	2,121,178	2,156,310	2,192,184	2,275,214
事業活動支出計	2,430,753	2,340,550	2,351,902	2,403,023

イ) 財務比率の経年比較

(単位：%)

比 率	計算式	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△ 14.6	△ 8.5	△ 7.3	△ 5.6
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	53.7	54.7	56.8	54.1
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	68.6	63.4	62.7	62.5
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	34.4	36.2	36.0	32.0
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	17.1	18.0	17.4	16.2

(2) その他

①借入金の状況

借入先	期末残高(千円)	返済期限
公的金融機関	1,038,610	2034年9月～2037年9月
市中金融機関	442,153	2033年8月～2037年3月
その他	183,400	2031年3月～2032年3月

②寄付金の状況

(単位：千円)

寄付金の種類	当期計上額
特別寄付金	52,590
一般寄付金	30,557
現物寄付	338

③補助金の状況

(単位：千円)

補助金の種類	当期計上額
国庫補助金	43,543
地方公共団体補助金	587,763
施設型給付費	51,149

④関連当事者との取引の状況

(単位：千円)

属性	役員、法人等の名称	取引の内容	取引金額
理事長	島村 新	日本私立学校振興・共済事業団からの借入 に対する被保証(注)	1,038,610

(注) E棟新築等に係る日本私立学校振興・共済事業団と当法人との金銭消費貸借契約において、
当法人と連携して債務を負っている。

(3)経営状況の分析

ア・経常収支差額比率

事業活動収支計算書関係比率

【定義】

経常収支差額比率 = (経常収入 - 経常支出) ÷ 経常収入

経常収入 = 教育活動収入計 + 教育活動外収入計

経常支出 = 教育活動支出計 + 教育活動外支出計

経常的な収支バランスを表す比率

【分析結果】

(単位:円・%)

部門	経常収入(A)	経常支出(B)	経常収支差額比率 (C=(A-B)/A)
学園	2,077,918,206	2,406,373,393	-15.8%
法人	5,835,597	96,145,454	-1547.6%
青短	162,230,754	416,595,393	-156.8%
青高	440,392,502	425,824,610	3.3%
青中	58,203,803	83,578,833	-43.6%
青幼	35,286,034	46,348,947	-31.4%
弘前	56,150,079	96,234,127	-71.4%
浦高	571,683,109	630,978,405	-10.4%
浦中	539,964,373	422,410,389	21.8%
浦幼	208,171,955	188,257,235	9.6%

※SD:2025年度事業活動収支内訳表

イ・人件費比率
事業活動収支計算書関係比率

【定義】

人件費比率 = 人件費 ÷ 経常収入

経常収入 = 教育活動収入計 + 教育活動外収入計

人件費の経常収入に占める割合を示す。

人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因ともなる。教職員1人当たり人件費や学生生徒等に対する教職員数等の教育研究条件等にも配慮しながら、各学校の実態に適った水準を維持する必要がある。

【分析結果】

(単位:円・%)

部門	人件費(A)	経常収入(B)	人件費比率 (C=A/B)
学園	1,425,874,846	2,077,918,206	68.6%
法人	53,746,655	5,835,597	921.0%
青短	224,797,973	162,230,754	138.6%
青高	286,375,536	440,392,502	65.0%
青中	40,253,865	58,203,803	69.2%
青幼	28,258,760	35,286,034	80.1%
弘前	89,024,731	56,150,079	158.5%
浦高	403,734,133	571,683,109	70.6%
浦中	182,516,885	539,964,373	33.8%
浦幼	117,166,308	208,171,955	56.3%

※SD:2025年度事業活動収支内訳表

ウ・教育活動資金収支差額比率
活動区分資金収支計算書関係比率

【定義】

教育活動資金収支差額比率 = (教育活動資金収入計 - 教育活動資金支出計 + 調整勘定等)
÷ 教育活動資金収入計

教育活動資金収入計 = 学生生徒等納付金収入 + 手数料収入 + 特別寄付金収入
+ 一般寄付金収入 + 経常費等補助金収入 + 付随事業収入 + 雑収入

教育活動資金支出計 = 人件費支出 + 教育研究経費支出 + 管理経費支出

教育活動資金収支差額の教育活動収入に占める割合を示し、学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率である。
比率はプラスであることが望ましいが、「その他の活動」でキャッシュフローを生み出し、教育研究活動の原資としている場合もあり得るため、「その他の活動」の収支状況を併せて確認する必要がある。

【分析結果】

(単位:円・%)

部門	教育活動資金 収入計(A)	教育活動資金 支出計(B)	調整勘定等(C)	教育活動資金収支 差額比率 (D=(A-B+C)/A)
学園	2,077,442,659	1,941,269,304	△ 46,346,730	4.3%
法人	5,835,508	94,540,157	△ 5,121,796	-1607.9%
青短	161,968,018	329,093,513	△ 20,618,627	-115.9%
青中高	498,578,542	435,479,241	287,256	12.7%
青幼	35,277,733	36,891,989	118,700	-4.2%
弘前	56,126,686	95,298,966	△ 32,530,586	-127.8%
浦中高	1,111,502,585	775,441,716	19,831,418	32.0%
浦幼	208,153,587	174,523,722	△ 8,313,095	12.2%

※SD:2025年度活動区分資金収支内訳表

工・積立率
貸借対照表関係比率

【定義】

積立率 = 運用資産 ÷ 要積立額

運用資産 = 現金預金 + 特定資産 + 有価証券

要積立額 = 減価償却累計額 + 退職給与引当金 + 第2号基本金 + 第3号基本金

学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。この比率では、長期的に必要な資金需要の典型的なものとして、施設設備の取替更新と退職金支払に焦点をあてている。その一方で運用資産の内容は、学校法人ごとに特定資産の用途の指定状況が一様ではないことから、換金可能な金融資産、すなわち現金預金・有価証券(固定資産及び流動資産)・特定資産の合計額と幅広く捉えている。一般的には、比率は高い方が望ましい。

【分析結果】

(単位:円・%)

部門	運用資産(A)	要積立額(B)	積立率 (C=A/B)
学園	519,179,993	8,882,236,671	5.8%
法人	518,117,013	181,953,636	284.8%
青短	255,720	1,420,944,417	0.0%
青中高	51,121	2,100,658,034	0.0%
青幼	0	191,760,810	0.0%
弘前	38,980	91,343,544	0.0%
浦中高	667,159	4,477,896,665	0.0%
浦幼	50,000	417,679,565	0.0%

※SD:2025年度貸借対照表内訳表

オ・流動比率
貸借対照表関係比率

【定義】

流動比率 = 流動資産 ÷ 流動負債

流動負債に対する流動資産の割合である。一年以内に償還又は支払われなければならない流動負債に対して、現金預金又は一年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、学校法人の資金流動性すなわち短期的な支払い能力を判断する重要な指標の一つである。一般に金融機関等では、200%以上であれば優良とみなしており、100%を切っている場合には、流動負債を固定資産に投下していることが多く、資金繰りに窮していると思われる。ただし、学校法人にあっては、流動負債には外部負債とは性格を異にする前受金の比重が大きいことや、流動資産には企業のように多額の「棚卸資産」がなく、ほとんど当座に必要な現金預金であること、さらに、資金運用の点から、長期有価証券へ運用替えしている場合もあり、また、将来に備えて引当特定資産等に資金を留保している場合もあるため、必ずしもこの比率が低くなると資金繰りに窮しているとは限らないので留意すること。

【分析結果】

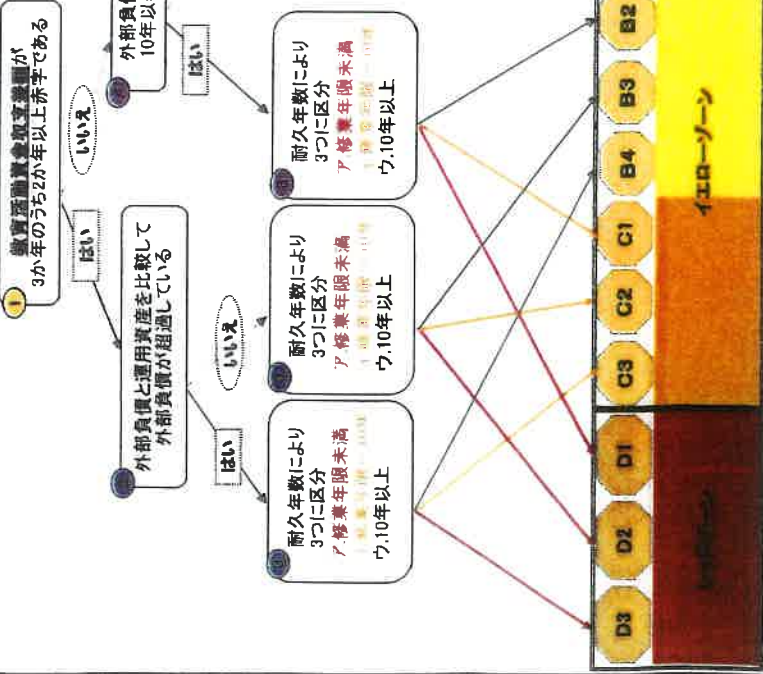
(単位:円・%)

部門	流動資産(A)	流動負債(B)	流動比率 (C=A/B)
学園	635,341,199	468,903,832	135.5%
法人	518,117,013	36,440,600	1421.8%
青短	3,700,330	22,216,879	16.7%
青中高	6,858,101	14,052,597	48.8%
青幼	1,630,931	1,076,856	151.5%
弘前	35,492,130	689,013	5151.2%
浦中高	48,780,781	384,377,555	12.7%
浦幼	20,761,913	10,050,332	206.6%

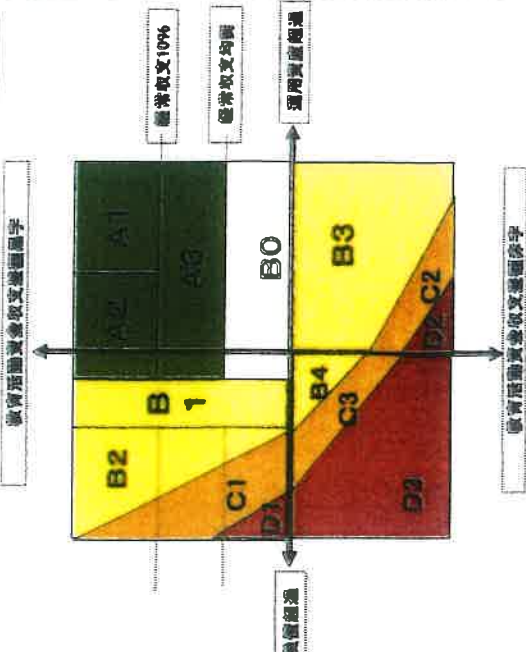
※SD:2025年度貸借対照表内訳表

定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分（法人全体）

※平成27年度から



- 1 教育活動収支差額
一般に学校法人の破綻は資金ショートにより起こると考えられるため、経営悪化の兆候を早期に発見し、経営破綻を防止するためには、1年間の経理的な教育研究活動の結果として現金が生み出せるかが重要になる。
- 2 運用資産は十分か、外部負債は返済可能な額か
教育活動資金収支差額が赤字の時は、過去の蓄積である運用資産を取り崩すこととなる。特に多額の外部負債がある場合には将来的に返済可能な額が問題になる。赤字の時でも、外部負債が過大であれば同様の問題がある。また、期末の運用資産が少なすぎる場合もリスクが大きい。
- 3 経営収支差額
経営収支差額が赤字でなければ自己資本を取り崩すこととなるため正常状態とはいえない。また経営収支差額が赤字であっても、基本金組入相当の赤字が生じていなければ経営収支は均衡しないため赤字幅で2つに区分した。
- 4 留意点
減価償却累計額等の異相立額に対して運用資産の蓄積が十分にされているか。



●教育活動収支差額
【教育活動収支差額】
学納金収入 + 手数料収入 + 特別寄付金収入(施設設備除く) + 一般寄付金収入 + 経営賞賛補助金収入(施設設備除く) + 付随専業収入 + 雑収入

●外部負債
借入金 + 学校債 + 未払金 + 手形債務

●運用資産
現金預金 + 特定資産 + 有価証券

●耐久年数とは「あと同年で資金ショートするか」を表し、原則として修業年限を基準に設定

●修正前受金保有率 = 運用資産 ÷ 前受金

●経営収支差額 = 経営収入(教育活動収入計 + 教育活動外収入計) - 教育活動支出(教育活動支出計 + 教育活動外支出計)

●積立率 = 運用資産 ÷ 要積立額(減価償却累計額 + 退職給与引当金 + 2号基本金 + 3号基本金)

●外部負債超過
【外部負債超過】
人件費支出 + 教育研究経費支出 + 管理経費支出

●留意点
調整勘定等

※教育活動資金収支差額の「3か年」とは、一昨年度、昨年度、今年度決算見込み3か年を指す

カ・経営判断指標に基づく財務分析(法人全体)

【定義】

日本私立学校振興・共済事業団がHPにおいて公開している「経営判断指標」に基づいて財務分析。

【分析結果】

(単位:円・%)

①教育活動資金収支差額が3か年のうち2か年以上赤字である。

2023年度(決算) 198,378,967

2024年度(決算) 153,507,607

2025年度(決算) 112,966,955

結果:いいえ。

④外部負債を約定年数又は10年以内に返済できない(=10年以内に資金ショートにより返済できなくなる)。そのような状況は見込んでいない。

結果:いいえ。

⑤修正前受金保有率100%未満。

修正前受金保有率 = 運用資産 ÷ 前受金

運用資産 = 現金預金 + 特定資産 + 有価証券

2026年3月末残高

現金預金 519,179,993

特定資産 0

有価証券 0

運用資産 519,179,993

運用資産 519,179,993

前受金 212,231,000

修正前受金保有率 244.6%

結果:いいえ。

⑥経常収支差額が3か年のうち2か年以上赤字である。

2023年度(決算) △ 239,674,848

2024年度(決算) △ 248,727,126

2025年度(決算) △ 328,455,187

結果:はい。

最終結果: B0

※SD: 定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分(法人全体) 平成27年度～

キ・損益分岐点分析

【定義】

ここでいう損益分岐点とは、収支が均衡する学生数をいう。具体的には学納金、経常費等補助金などの経常収入(教育活動収入計 + 教育活動外収入計)と、人件費、教育研究経費、管理経費などの経常支出(教育活動支出計 + 教育活動外支出計)がイコールになるときの学生数のことである。

【前提】

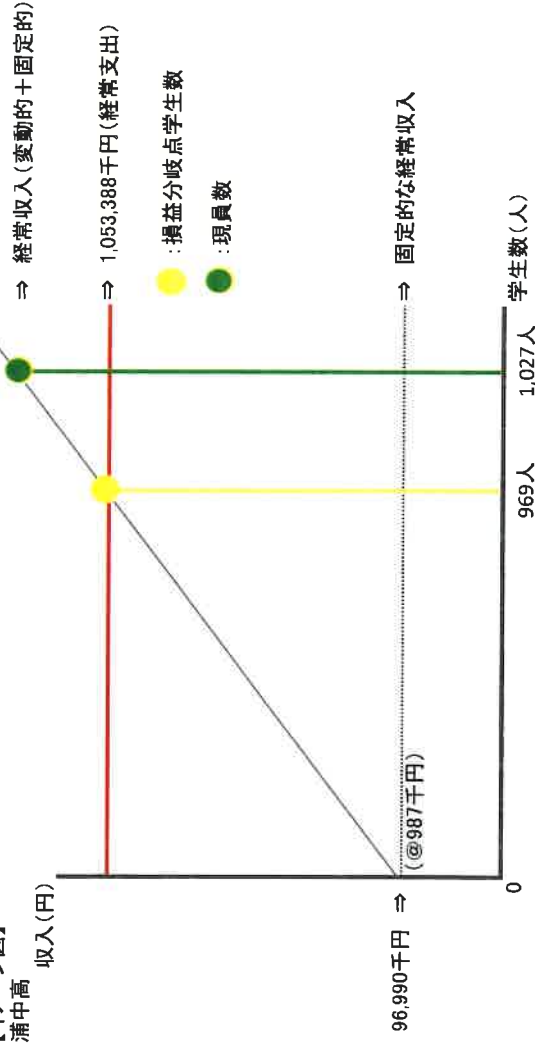
損益分岐点分析では、通常はコストも固定費と変動費に分けて計算するが、ここでは簡易的に経常支出すべてを固定費として取り扱う。

【分析結果】

部門	変動的な経常収入(A)		学生数(B) ※2025年5月1日時点	収入単価(C) (C) = (A) / (B)		固定費(E) 経常支出全て		損益分岐点学生数(F) (C) × (F) + (D) = (E)	
	学納金 + 経常費等補助金					固定費(D)	変動的な経常収入(D)以外		
青短	132,568,100		94		1,410,299	29,662,654	416,595,393		275
青中高	435,998,200		512		851,559	62,598,105	509,403,443		525
青幼	33,542,260		10		3,354,226	1,743,774	46,348,947		14
弘前	19,450,766		7		2,778,681	36,699,313	96,234,127		22
浦中高	1,014,657,000		1,027		987,981	96,990,482	1,053,388,794		969
浦幼	160,872,186		235		684,562	47,299,769	188,257,235		206

※SD: 2025年度専業活動収支内訳表、学生生徒及び教員・職員在籍者数等一覧表(2025年5月1日)

【イメージ図】



2025 年度事業報告書の附属明細書

学校法人 明の星学園

該当事項なし。